

浮世絵学年表

日本浮世絵学会編
主幹 酒井 雁高

主要参考書目（年表）

- 1906 朝倉／日本小説年表、金尾文淵堂
- 1906 大久保／増補青本年表・増補続青本年表／新群書類従（7）、国書刊行会
- 1920 漆山／浮世絵年表／芸苑叢書、吉川弘文館
- 1926 朝倉／新修日本小説年表、春陽堂
- 1927 沢田／日本画家辞典、紀元社
- 1929 黒田／上方絵一覧、佐藤章太郎商店
- 1929 朝倉／日本小説年表、付総目録／近代日本文学大系、国民図書
- 1931 井上／浮世絵師伝、渡辺版画店
- 1934 漆山／新撰浮世絵年表、奎光書院
- 1936 藤井／享保以後 大阪出版書籍目録、大阪図書出版業組合
- 1940 源／日本美術史年表、星野書店
- 1942 坂崎／日本画の精神、東京堂
- 1944 朝倉／日本小説年表（改訂）、ゆまに書房
- 1950 仲田／絵本の研究、美術出版社
- 1952 小林（剛）・藤田／日本美術史年表、創元社
- 1953 吉田／浮世絵の美（附録年表）、創元社
- 1962 鈴木／日本版画年表／日本版画美術全集別巻、講談社
- 1962 樋口・朝倉（治）／享保以後・江戸出版書目、未刊国文資料別巻
- 1967 久松／日本文学史（年表）、至文堂
- 1971 久松／新版日本文学史 全8冊、至文堂
- 1972 源／日本美術史年表、座右宝刊行会
- 1977 町田・永井／日本美術史年表、角川書店
- 1983-87 漆山／絵本年表 全6冊、青裳堂
- 1984 漆山／近世人名辞典 全3冊、日本書誌学大系、青裳堂
- 1985 市古・野間／日本古典文学大辞典 全8冊、岩波書店
- 1986 太田・山根／原色図典日本美術史年表、集英社
- 1993 朝倉（治）・大和／享保以後・江戸出版書目 新訂版、臨川書店

西暦	和暦	生年	事 項	没年（享年）
844	承知 11		○逸名／日光山大権現本地佛馬頭観世音（日光・輪王寺、下野國志卷五、板木未発見）	
868	貞観 10		○逸名／金剛般若波羅密経扉絵（敦煌出土、咸通九年四月十五日 - 刊記）	
1049	永承 4		○逸名／山城國・浄瑠璃寺藏「阿弥陀佛本尊胎内阿弥陀如来摺佛	
1096	嘉保 4		○逸名／高野山不動尊一萬体摺刷一拾遺往生傳・巻上	
1115	永久 3		○逸名／十一面観音像」関白藤原忠實摺寫一殿曆	
1120	元永 3		○逸名／元永本・古今集・上下書写（表紙は唐子唐草文の空摺、本文の地模様は雲母摺）	
1129	大治 4		○逸名／不動尊像一萬体を摺寫一永昌記	

1140	保延 6		○逸名／毘沙門天王一萬六千八十体を摺刷一僧西念供養目錄	
1150	久安 6		○逸名／炎魔天三十体の摺佛供養一台記○逸名／扇面古写経・扇面形法華経冊子の下絵版（大阪四天王寺に五十一面ある。その他）	
1162	應保 2		○逸名／毘沙門天像の摺佛（大和中川・成身院）	
1164	長寛 2		○逸名／巖島平家納経師品・葉王品書写（紙背地模様が摺刷）	
1188	文治 4		○逸名／扇面写経下絵（四天王寺）	
1230	寛喜 2		○逸名／神護寺領絵図	
1239	延應 1		○逸名／首楞嚴経（京都観智院藏）（仏像の見返り図があり、卷子本から挿絵本に発展する最初のもの。奥付に、下野國、僧隆エン圓・彫版とある）	
1246	寛元 4		○逸名／佛制比丘六物図（京都・泉湧寺刊）（挿絵入り冊子本の早期のもの）	
1267	文永 4		○逸名／梵網経・見返り図一刊記	
1299	正安 1		○円伊／一遍聖繪一卷十二奥書	
1305	嘉元 3		○上野法橋一聖徳太子絵伝一背銘	
1334	建武 1		○建武新政	
1348	正平 3		○良全／十六羅漢像第一尊者一	
1361	康安 1		○良全／白衣観音図一乾峰土曇賛	
1383	永徳 3		○逸名／融通念仏縁起絵巻一奥書	
1384	至徳 1		○逸名／融通念仏縁起絵巻一裏書	
1386	至徳 3		○逸名／夢窓疎石像一汝霖妙佐賛	
1391	明德 2	堯孝	○逸名／北野天神縁起絵巻一奥書	
1394	応永 1		○伝明兆／大道一以像一性海靈見賛	
1398	応永 5		○金閣寺、成る（1950 焼失）	
1405	応永 12		○逸名／柴門新月図一玉■梵芳序 椀の木を田	
1414	應永 21		○逸名／足利義持像一怡雲寂■賛 門／言	
1418	應永 25		○逸名／足利満詮像一足利義持賛	
1419	應永 26		○逸名／北野天神縁起絵巻一奥書	
1423	應永 30		○寂齋ほか／融通念仏縁起絵巻一銘	
1446	文安 3		○伝周文／竹齋読書図一江西竜派賛	
1463	寛正 4		○正信／雲頂院壁画観音・羅漢を描く一蔭涼	
1467-77	応仁 1		○応仁の乱で社寺など多く焼失。	
1468	応仁 2		○能阿弥／白衣観音図一落款	
1469	文明 2	宣秀	○土佐光信、絵所預となる一土佐文書	
1486	文明 18		○雪舟／山水長巻（秋冬山水図）一奥書	
1489	延徳 1	雅綱	○慈照寺銀閣上棟一蔭涼○正信／足利義尚像一蔭涼	
1491	延徳 3		○伝曾我蛇則／花鳥山水襖一真珠庵創建	
1496	明應 5		○雪舟／恵可断臂図一落款	
1500	明應 9 庚申		○狩野正信／布袋図一鹿苑	
1501	文亀 1 辛酉	周良 紹鷗	○雪舟／四季山水図一款○雪舟／渡唐天神像一款	
1502	文亀 2 壬戌		○珠光／山水図○宗祇像	珠光（81） 宗祇（82）

1503	文龜 3 癸亥		○土佐光信／北野天神縁起絵巻一奥書、実隆	
1504	永正 1 甲子	尊鎮	○光信／十三仏一実隆	
1505	永正 2 乙丑		○芝慶舜／當麻曼陀羅一旧軸木銘	
1506	永正 3 丙寅		○逸名／一休宗純像一岐翁紹偵賛	雪舟 (87)
1507	永正 4 丁卯	言繼	○逸名／北野天神縁起絵巻一奥書○雪舟／天橋立図一下限	
1508	永正 5 戊辰		○石清水八幡、焼く一宣胤。	
1509	永正 6 己巳		○実隆、土佐光信／阿弥陀三尊像を見る一実隆。	雅康 (74)
1510	永正 7 庚午		○逸名／宗峰妙超像一東溪宗牧賛	
1511	永正 8 辛未		○相阿弥／君台観左右記を撰述。	
1512	永正 9 壬申		○逸名／三十六歌仙扁額一寄進銘	尊應 (60s)
1513	永正 10 癸酉		○元信／鞍馬寺縁起、三巻を描く一写本奥書○伝元信／本堂障壁画一大仙院	
1514	永正 11 甲戌		○逸名／蓮如上人像一裏書	
1515	永正 12 乙亥		○逸名／釈迦堂縁起絵巻一詞書	
1516	永正 13 丙子		○逸名／横瀬八幡宮縁起絵巻一箱書	
1517	永正 14 丁丑		○光信／清水寺縁起絵巻一宣胤	
1518	永正 15 戊寅		○逸名／山水図一景徐周麟賛	
1519	永正 16 己卯	松栄	○逸名／親鸞絵伝一裏書	
1520	永正 17 庚辰		○実隆、清水寺縁起絵の詞を書く一実隆	
1521	大永 1 辛巳		○土佐光信、この頃、没一元長卿記○元信／■林宗棟像一自賛 邦の篇を登	光信 (88)
1522	大永 2 壬午	伝内 利休	○金剛峰寺山王院本殿 (和歌山) 一墨書。	
1523	大永 3 癸未		○巖島神社多宝塔一芸藩通志	

1524 大永 4 甲申		○久国／真如堂縁起絵巻一奥書	
1525 大永 5 乙酉		○元信／神馬図絵馬一銘	相阿弥 (69) 実澄 (84)
1526 大永 6 丙戌		○実隆、源氏絵様草子を見る一実隆	後柏原 (62)
1527 大永 7 丁亥	隆達	○牡丹花肖柏像一自賛	肖柏 (85)
1528 享禄 1 戊子		○逸名／長尾景長像一傑伝禅長賛	
1529 享禄 2 己丑		○元信・光茂／扇絵一実隆	
1530 享禄 3 庚寅	光信	○正信／周茂叔愛蓮図一下限	正信 (97)
1531 享禄 4 辛卯		○光茂／當麻寺縁起絵巻一奥書・実隆○逸名／善恵上人絵巻一箱書	信秀 (63)
1532 天文 1 壬辰		○光茂／桑実寺縁起絵巻一奥書	
1533 天文 2 癸巳	友松	○曾我紹仙／山水図一月舟寿桂賛	寿桂*
1534 天文 3 甲午	幽齋	○光茂、長谷寺開眼供養に關与一御湯殿	
1535 天文 4 乙未		○足利義晴、御物葦曳絵五巻を借覧一後奈良院	基春 (83)
1536 天文 5 丙申	秀吉	○芝琳賢／大仏縁起絵巻一奥書	
1537 天文 6 丁酉		○逸名／源氏絵扇献上ー御湯殿	実隆 (82)
1538 天文 7 戊戌		○古岳宗巨像一自賛	
1539 天文 8 己亥	等伯 光吉	○元信／神馬図絵馬一額裏落書	
1540 天文 9 庚子	道安	○元信／釈迦三尊像一落款	
1541 天文 1 0 辛丑		○土佐光元、左近将監となる一土佐文書	
1542 天文 1 1 壬寅	家康	○言繼、狐の絵二巻を宮中の女房から借りる一言繼○雪村／説門弟資一文晁画談	
1543 天文 1 2 癸卯	永徳	○ポルトガル船、種子島に漂着し、鉄砲を伝える一南浦文集 ○伝元信／四季花鳥図襖 (京都・靈雲院) 一天井板銘	通言 (57)
1544 天文 1 3 甲辰	織部 道澄	○光茂／襖絵 (内裏記録所) 一言繼	尚通 (73)
1545 天文 1 4 乙巳		○亮順／二月堂縁起絵巻一模本奥書	
1546 天文 1 5 丙午		○元信／襖絵 (内裏記録所) 一御湯殿	
1547 天文 1 6 丁未	有楽齋 等顔	○狩野新介／屏風 (石山本願寺) 一証如	
1548 天文 1 7 戊申		○元信／屏風下絵一奥書	
1549 天文 1 8 己酉		○伝元信／四季花鳥図屏風一落款○ガビエル、来日	

1550 天文 19 庚戌	徳乗	○雪村／以天宗清像一落款○伝元信／十六羅漢像一落款	尊鎮 (47)
1551 天文 2 0 辛亥	宗秀	○伝元信／二尊院縁起絵巻一この頃か、詞書	
1552 天文 2 1 壬子	昌菴 吉信 尊朝	○狩野派／橋辨慶図絵馬一寄進銘、巖島絵馬鑑○伝元信／七賢四皓図屏風一この頃か、落款	
1553 天文 2 2 癸丑	光徳 宗潭	○元信・源七・二郎三郎、石山本願寺に下向。	宗鑑 (89)
1554 天文 2 3 甲寅	了以	○逸名／源氏物語絵巻一奥書	
1555 弘治 1 乙卯		○雪村／叭々鳥図一景初周随賛	紹鷗 (54)
1556 弘治 2 丙辰	昭実 通勝 孝信	○逸名／日吉山王社絵図一裏書	
1557 弘治 3 丁巳		○逸名／長谷寺縁起絵巻一奥書○雪村／蕪図一景初周随賛	周随*
1558 永禄 1 戊午	光悦	○博多の切支丹教会堂成る一日本通信	
1559 永禄 2 己未	山楽 お通	○談山神社本殿指図一裏書。	元信 (84)
1560 永禄 3 庚申		○足利義輝、狩野・土佐の金磨付屏風三双を献上ー御湯殿	
1561 永禄 4 辛酉	惺窩	○フロイス、京都に仮聖堂を作るーフロイス／日本史	
1562 永禄 5 壬戌		○朝倉義景、曲水の宴（越前一乗谷）一朝倉始末記。	
1563 永禄 6 癸亥		○松栄／仏涅槃図一点眼仏事記	雅綱 (75)
1564 永禄 7 甲子		○長谷川信春／日蓮上人像一落款	
1565 永禄 8 乙丑	信尹 光信	○官南／神農図一定珪賛	
1566 永禄 9 丙寅		○秀頼／醉李白図一惟高妙安賛○長谷川信春／三十番神図一落款○松栄・永徳／本堂障壁図（聚光院創建）一祖心行状	
1567 永禄 1 0 丁卯		○秀頼／渡唐天神像一惟高妙安賛	妙安 (88)
1568 永禄 1 1 戊辰		○信春／涅槃図一落款○信長、入京	久藏 (26)
1569 永禄 1 2 己巳	崇伝 尊雅 長嘯子	○秀頼／神馬図絵馬一奉納銘○逸名／三十六歌仙絵色紙屏風一銘○松栄／二十四孝図屏風一この頃か、巖島旅行中	光元 (40)
1570 元亀 1 庚午	内膳	○松栄／承点寺境内図一策彦周良賛	
1571 元亀 2 辛未	素庵、 宗慶 宗柏、孝信 孝	○笑嶺宗■一自賛 訴の点なし	道安 (32) =順清
1572 元亀 3 壬申		○長谷川信春／日堯上人像一落款	
1573 元亀 4 癸酉		○長谷川信春／武田信玄像一寄進状	

1574 天正 1 甲戌		○雪村／竹林七賢人図屏風一落款。	道安(?) =順貞
1575 天正 3 乙亥	秀賢	○狩野派、宮中御用の扇絵、屏風絵を描く一御湯殿	
1576 天正 4 丙子		○永徳ほか／安土城障壁画一信長	
1577 天正 5 丁丑	休伯 =長信	○永徳／葦穂時絵鞍籠下絵一銘	
1578 天正 6 戊寅	勝以	○永徳／濃絵三国名所図絵（安土城）一信長	
1579 天正 7 己卯	光廣	○安土城天守閣、成る一信長	言継（73） 周良（79）
1580 天正 8 庚辰		○信長、安土城下に宣教師の宅地を与え、会堂を建てて一日本年報	
1581 天正 9 辛巳		○逸名／四季花鳥屏風一裏書○蓮如上人伝絵巻一裏書	
1582 天正 10 壬午	重保	○信長、家臣に永徳の金碧障壁画（名所景物）を見せる一信長○逸名／細川昭元夫人像一月航宗津賛	
1583 天正 11 癸未	光則	○秀吉、大坂城の普請を始め一兼見	
1584 天正 12 甲申	松花堂 二天 宗和	○永徳ほか／大坂城障壁画を製作一顕如・画史	
1585 天正 13 乙酉		○雪村／瀟湘八景図屏風一この頃、落款○雪村、この頃没か	雪村
1586 天正 14 丙戌		○永徳一派／南禅寺大方丈障壁画一南禅寺文書○秀吉、方広寺大仏製作のため平戸より明の工匠・古道を招く一松浦文書	
1587 天正 15 丁亥		○秀吉、北野大茶会を行う一北野神社文書	
1588 天正 16 戊子	通村	○永徳／金地彩色の襖絵（大徳寺内天瑞寺の客殿）一宝山誌鈔	
1589 天正 17 己丑		○方広寺大仏、ほぼ成る一多聞院○長谷川等伯／大徳寺三門天井柱絵	
1590 天正 18 庚寅	山雪 宗也	○家康、江戸城に入る一顕如○逸名／檜図屏風一八条宮邸の旧襖	永徳（48） 伝内（69）
1591 天正 19 辛卯	尊純 光慶 等益	○秀吉、京都に御土居を築く一三藐院記○逸名／サントスの御佐剛の内抜書（銅板の扉絵、九州・加津佐）	利休（70）
1592 文禄 1 壬辰	隠元	○伝長谷川久藏／朝比奈草摺曳図絵馬一奉納銘○逸名／ドチリナ・クリシタン（天草、切支丹版）一年紀	松栄（74）
1593 文禄 2 癸巳		○長谷川等伯・久藏／智積院障壁画一祥雲寺建立	久藏（26）
1594 文禄 3 甲午		○宗秀／遊行上人縁起絵巻一銘	

1595 文禄 4 乙未		○等伯/利休像一春屋宗園賛	
1596 慶長 1 丙申 12/27 改元		○宗秀/日■上人像一落款○岩佐勝以(又兵衛)(19) ■=示+眞	
1597 慶長 2 丁酉	貞信	○海北友松/禪居庵障壁画一建立	尊朝(46)
1598 慶長 3 戊戌	友雪	○伝長谷川等伯/妙法尼像一下限、妙法尼没。	秀吉(63)
1599 慶長 4 己亥	立圃 如慶	○逸名/ぎやどべかどる(切支丹版、長崎)一年紀○宗秀/三十六歌仙図扁額一豊国社	
1600 慶長 5 庚子		○逸名/ドチリーナ・キリシタン(切支丹版)一年紀○関ヶ原の戦い	
1601 慶長 6 辛丑		○伝長谷川等伯/商山四皓図・蜆子猪頭図襖一真珠庵文書	宗秀(51)
1602 慶長 7 壬寅	探幽	○伝長谷川等伯/天授庵方丈襖絵一方丈棟札	
1603 慶長 8 癸卯	勝重?	○徳川家康、征夷大將軍となり江戸に幕府を開く○江戸日本橋竣工	
1604 慶長 9 甲辰		○8月豊国神社臨時祭り(屏風、蜂須賀侯所蔵)	
1605 慶長 10 乙巳		○「帝鑑図説」(6冊)翻刻される。文字は活字。	光信(44)
1606 慶長 11 丙午		○内膳/豊国祭礼図屏風一舜旧	
1607 慶長 12 丁未	尚信	○2月20、江戸城にて出雲の於國、勸進歌舞妓	
1608 慶長 13 戊申		○光悦本「絵入伊勢物語」2冊。書は光悦、画は土佐光信。○6月、長谷川等伯(70)「土佐坊昌俊堀川夜討ち」(京都北野神社)	道澄(65)
1609 慶長 14 己酉		○等伯/十六羅漢図屏風(智積院)一落款	
1610 慶長 15 庚戌		○光悦本「伊勢物語」再版。	等伯(72) 幽齋(77) 通勝(55)
1611 慶長 16 辛亥		○雲谷等顔、法橋となる一萩藩閩閩録	隆達(85)
1612 慶長 17 壬子		○12月、庄司甚右衛門、遊女町建設を願い出る。	
1613 慶長 18 癸丑	安信	○三宝院勅使の間・秋草の間一義演	光吉(75)
1614 慶長 19 甲寅		○三楽/繫馬図一銘	信尹(50) 秀賢(40) 了以(61)

1615 元和 1 乙卯		○大坂夏の陣○5月、大坂城落城の瓦版 ○7/13 改元	友松 (83) 織部 (72) 尊雅 (47)
1616 元和 2 丙辰		○中院通村、興以／大坂陣図屏風を叡覧に供す一通村	家康 (75) お通 (58) 内膳 (47)
1617 元和 3 丁巳	光起	○庄司甚右衛門、官許を得て葺屋町に(旧)吉原遊廓を作る。	秀信 (60)
1618 元和 4 戊午	闇齋	○11月、吉原遊女屋建揃う。	孝信 (48) 等顔 (72)
1619 元和 5 己未	志津磨	○養源院、焼失す一舜旧	惺窩 (59) 昭実 (64) 光徳 (67)
1620 元和 6 庚申		○支倉常長、ローマより自己の肖像画・法王パウロ五世像などを携えて帰る一治家記録	
1621 元和 7 辛酉		○伝依屋宗達／松図(本堂障壁画)、白象・唐獅子図(杉戸絵)一養源院再建	有楽齋 (75)
1622 元和 8 壬戌	資慶	○宗達／蘆鴨図一無量寿院建立(義演)	貞信 (27)
1623 元和 9 癸亥		○伝山楽／聖徳太子絵伝板絵一画史	
1624 寛永 1 甲子		○2月15日、中村勘三郎歌舞妓興業(江戸中橋)○明石志賀之助、四谷塩町にて晴天六日間相撲興業○2/30 改元	
1625 寛永 2 乙丑	益信	○正月、五段本「高館」1冊、出版(版元、京都寺町妙満寺前勝兵衛)	
1626 寛永 3 丙寅		○9月6日、二條城へ御行幸(絵巻物三巻活字版)	
1627 寛永 4 丁卯		○算書「塵却記」(挿絵、彩色摺あり)	
1628 寛永 5 戊辰		○守信、崇伝から金地院方丈障壁画製作を催促される一本光国師	
1629 寛永 6 己巳		○女舞、女歌舞伎、女浄瑠璃、禁止一歌舞伎年表	
1630 寛永 7 庚午	益軒 師宣?	○9月「傳法正宗記」12巻。○宗達画・光廣書／西行法師行状絵巻一奥書	光慶 (40)
1631 寛永 8 辛未	永納 具慶	○説教節「かるかや」○4月2日、浅草寺炎上。	宗柏 (61) 徳乗 (82)
1632 寛永 9 壬申		○3月「日蓮聖人註画讃」(版元、中野市右衛門)○12月「薄雪物語」2冊、「ふじの人穴さうし」2冊、(版元、中野道也)	素庵 (62)
1633 寛永 1 0 癸酉		○12月、御書物奉行設置(関兵三郎正成、星合猪左衛門具教、三雲内記、西尾嘉右衛門正信の四人)	崇伝 (65)
1634 寛永 1 1 甲戌		○北村忠兵衛、末吉船の絵馬(京都、清水寺)○六段浄瑠璃本「はなや」2冊(丹緑本、小本、作者、薩摩太夫、版元、西洞印さうしや太郎右衛門)○村山又三郎(市村羽左衛門の祖)葺屋町にて歌舞妓興業。	
1635 寛永 12 乙亥		○絵入本「七人比丘尼」「烏帽子折」○堺町の彦作、勘三郎、紫の幕、華美な衣裳で禁獄される。	山樂(77) 宗潭 (83)

1636 寛永 1 3 丙子	常信	○浄瑠璃本「たなばた」(大本)	
1637 寛永 14 丁丑		○浄瑠璃本「安口の判官」「ともなが」「むらまつ」	光悦(80)
1638 寛永 15 戊寅		○甚之丞/牛若丸・僧正坊図額一奉納銘	光則(56) 光廣(60)
1639 寛永 1 6 己卯		○7月、紅葉山文庫 ○六字南無右衛門の浄瑠璃正本「八島道行」(版元、浄瑠璃屋喜右衛門)	松花堂(56)
1640 寛永 17 庚辰	花山院	○2月、平爲春作「あた物語」2冊 ○6月17日、又兵衛勝以/三十六歌仙図扁額(武州川越・喜多院)一裏面銘	昌菴(89) 吉信(88)
1641 寛永 18 辛巳		○探幽/大徳寺方丈障壁画一江月宗■銘 ■=散水+元	
1642 寛永 1 9 壬午	西鶴	○2月19日、浅草寺炎上(木村市兵衛、古絵馬を救け出すという) ○6月、「吾妻物語」、浄瑠璃本「小袖曾我」 ○9月、如備子作「可笑記」5冊(萬治2年、挿絵入りを出刊)	
1643 寛永 2 0 癸未		○正月、李龍眠画(伝)「聖賢像賛」翻刻(版元、上村次郎衛門) ○二橋清兵衛「色音論」(京都) ○浄瑠璃本「待賢門平氏合戦」「いけどり夜討」「一の谷逆落」など(金平本のような体裁)	
1644 正保 1 甲申	芭蕉	○岡村長兵衛、芝居興業(木挽町六丁目) ○浄瑠璃本、藤原吉次正本「阿弥陀の本地」○12/16改元	等益(54)
1645 正保 2 乙酉	清元?	○江戸にて初めて瓦を焼く。	武蔵(62) 重保(64)

1646 正 保 3 丙戌		○正月、丹録本「曾我物語」12冊(京都誓願寺前、安田十兵衛)	
1647 正保 4 丁亥		○浄瑠璃本「はかた」「石橋山七騎落」。	
1648 慶安 1 戊子	冬基	○風呂屋の遊女、禁止となる。 ○浄瑠璃本「俊徳丸」「ゆみつぎ」。○2/15改元	
1649 慶安 2 己丑			長嘯子(81)
1650 慶安 3 庚寅		○岩佐又兵衛勝以、没一岩佐家由緒	又兵衛(73) 尚信(44)
1651 慶安 4 辛卯		○「中将姫本地」「弁慶物語」 ○浄瑠璃本「阿弥陀胸割」「ふき上秀衡」	山雪(62)
1652 承應 1 壬辰	一蝶 古■	○4月、立圃?絵入本「つれづれなぐさみ草」8冊○6月、若衆歌舞妓禁止となる。この頃の若衆は前髪を剃り落とし紫の帽子をかぶる。○10/8改元 ■=石+間	通村(66) 宗慶(83)
1653 承應 2 癸巳	近松	○3月、「ぶんしやうの草紙」○4月「つるぎのまき」○10月「愛宕地藏の物語」	
1654 承應 3 甲午	友禪 嵐雪	○2月、山本長兵衛「太閤軍記」4冊。○8月、山本春正自画「源氏物語」絵入本、大本60巻。226図の挿絵。版元は八尾勘兵衛。○9月、「狭衣」大本4冊。版元、田中理兵衛。 ○土佐光起、左近将監となる一土佐文書	休伯(78)
1655 明暦 1 乙未		○4/13改元○4月8日、辻村茂兵衛画「諸侯行列図」(京都、清水寺扁額)○7月、「永明道跡」翻刻(支那画の挿絵あり)○12月12日、浅草文庫の卜齋没。○浄瑠璃盆「日蓮記」	卜齋
1656 明暦 2 丙申	幸仁	○3月、「女四書」7冊、「武者物語」2冊 ○7月「本朝百将伝」2冊。○9月「平家物語」12冊○11月「古今軍林一徳抄」20冊、「角田川物語」。○12月「二十四孝」、「一本菊」3冊「うらみのすけ」「巖島の本地」	宗和(73)

1657 明暦 3 丁酉		○1月18日、江戸本郷丸山の本妙寺より出火。町屋400町、片町八百町焼失。焼死107046人 ○2月、谷岡七左衛門「大和物語」5巻。○8月、雛屋立圃「源氏小鏡」版元、安田十兵衛。○9月、「保元平治物語」6冊。○11月、谷岡七左衛門、土佐光信筆「職人画歌合」3巻。足利義尚撰「新百人一首」	羅山(75)
1658 万治 1 戊戌 7/25 改元	光琳	○正月、師宣風「方丈記」○7月、中川喜雲撰「京童」(挿絵は立圃より師宣風)。○浅井了意「東海道名所記」(挿絵、立圃風)○8月、山本泰順撰「山城名所記」(一名「洛陽名所集」)12冊。○この頃、絵入本多くなる。	
1659 万治 2 己亥		○正月、戯作の鼻祖、如儡子「可笑記」5冊。絵入本として出版。「伊曾保物語」3冊。「北条五代記」「身の鏡」「聖蹟図諺解」○2月「やまと小学」8冊。○3月「はちかづきのさうし」「堪忍記」8冊○4月、役者評判「野郎蟲」○5月、「天ぐのだいら」2冊。「かげきよ」2冊。山本春正風の絵入本「太平記大全」50着。○6月、「いざよひの日記」2冊。○7月、中川喜雲「鎌倉物語」5冊。「一扁上人絵詞伝縁記」4冊。○8月、「おちくぼものがたり」2冊。○9月、「三世相」○10月、「宇治拾遺物語」15冊。○12月、「松風村雨」3冊。○浄瑠璃本、「くらまかくれ文あらひ」「道風額揃」「二たんの四郎」「四天王武者執行」(師宣画か)	
1660 万治 3 庚子	周信 團十郎	○両国橋架設。○木挽町五丁目、森田太郎兵衛(勘弥の祖)芝居興業。○金平本浄瑠璃、初めて出版。「金平末春軍論」。版元、京都、正本屋九兵衛。○浄瑠璃本。「四天王頼光勇力譚」「箱根山合戦」「くわてき舟軍」「酒典童子若壮」「天狗の羽討」「弁財天本地」○正月「世諺問答」3冊。○3月、「智恵鑑」10冊。○7月、「漫歳躍」○9月、「吉原かがみ」○絵本「儒仏問答」「少将鞍馬物語」「絵そら言」「源氏鬢鏡」	
1661 寛文 1 辛丑 5/5 改元	其角	○立圃作画「十帖源氏」10冊。○正月「をみなへし」3冊。○3月、「武蔵鑑」2冊(明暦3年の大火を記す)。「古老軍物語」6冊。○9月、「うきぐも物がたり」3冊。「本朝女鑑」「釈教三十六人歌仙」。○絵入本、鈴木正三著「因果物語」6冊、「堀川院艶書合」3冊、「六ぼう名乗ことば尽くし」○土佐広通、如慶と号し法橋となる一住吉家旧記。	
1662 寛文 2 壬寅		○正月、伝師宣「案内者」6冊。曾我自休著「爲愚寝物語」「親子物語」2冊。○3月、師宣画「水鳥記」3冊。○4月、「奥州後三年記」3冊。○5月浅井了意著「江戸名所記」7冊。野郎評判記「剥野老」○7月、伝吉田半兵衛画「狂言記」5冊。○8月「浅井物語」6冊。○5月1日、京都大地震。伝了意作「かなめいし」2巻。○12月、丹羽玉峰画「仏祖像賛」○浄瑠璃本。「公平関破り」	
1663 寛文 3 癸卯	乾山 破笠 寂明	○3月、「楊貴妃物語」3冊。丹録本。○4月、「すみぞめさくら」2冊。○5月、師宣風「曾我物語」12冊。○夏、御室宮、日光神社参。「日光御社参行列記」○浄瑠璃本「金平甲論」「金平法門諍ひ」「酒呑童子」「頼義金剛山合戦」「佐々木問答」「大友眞鳥」「那須の舟遺恨」「渡辺三田合戦」。	
1664 寛文 4 甲辰	清信	○正月、「洛陽名所集」○3月、「うらみのすけ」○5月、「理非鑑」3冊。「堪忍記」8冊。○11月、師宣画「義経記」8冊。○12月、師宣画「大和孝経」6冊。「ぶんしやうのさうし」2冊。○深草元政上人著「扶桑隱逸伝」3冊。「將軍記」20冊。「あさがほのつゆのみや」2冊。○浄瑠璃本、「金平化生論」「金時洛陽入」「和田酒盛」「瀧根悪太郎」	
1665 寛文 5 乙巳	静山	○正月、「大倭二十四孝」24巻。「二十四章孝行録」1巻。「京童」7巻。○2月、「よだれかけ」6冊。○3月、「狂言記」再版。○8月、「寶満長者」「吉利支丹退治物語」○9月、「花伝書」。○浅井了意「じかはち物がたり」5冊。浄瑠璃本、「源平変化諍」「八幡の本地」「三位入道頼政」「渡辺智略討」	
1666 寛文 6 丙午		○中村勘三郎、総踊りを創める。その図、芝居年代記等にある(武江年表)○2月、「聖徳太子伝」10冊。「はちかつき姫物語」2冊。○3月、「伽婢子」13冊。狩野派「海上物語」2巻。「花の縁物語」○7月、中村 齋「訓蒙図彙」20巻。○8月、「圓光大師御伝記」(「法然上人一代記」)10冊。○10月、「山分」○11月、「釈迦八相物語」8冊。○仏教書、多く出版。「ほうめうどうじ」2巻。	
1667 寛文 7 丁未		○正月、「やっこ俳諧」1冊。「本朝寺社物語」9巻。「和漢寶かがみ物語」4冊。「青葉の笛」2冊。○2月、「倭中庸」10冊。「和漢理屈物語」6冊。○4月、「三國物語」5冊。○5月、「水鳥記」○9月、「京童跡追」6冊。○11月、「堀江物語」3冊。○師宣画「吉原讃嘲記」○浄瑠璃本、「阿弥陀の本地」「しよもつうりにたんの四郎」「十羅刹女の山来鬼子母神」	宗也(78)
1668 寛文 8 戊申		○2月、「本朝古今列女伝」7冊。○6月、「大坂物語」○12月、「訓蒙図彙」再版。○師宣風、絵入本「身のかがみ」3冊。浄瑠璃本、「多田の満仲」「源平敵討のいこん」	
1669 寛文 9 己酉		○3月、「くわんがく院物語」2冊。○4月、「賢女物語」3冊。○5月、「犬百人一首」○「獣太平記」2冊。○浄瑠璃本、「新高館」「頼朝三代記」「中将姫本地」。	立圃(71) 資慶(48)
1670 寛文 10 庚戌		○正月、立圃「幼源氏」10冊。版元八尾勘兵衛。「判官みやこばなし」5冊(林市三郎版)。○3月絵入本「発心集」8冊。○4月、師宣「義経記」8冊。○9月、「釈氏二十四孝」○「十二人姫」「さくらの中將」○浄瑠璃本、「源氏供養」「百萬遍」「佐野源左衛門」「鎮西八郎爲朝」「西國三十三所巡礼記」	如慶(72)

1671 寛文 11 辛亥	助信	○正月、中川喜雲「しかたばなし」4冊。「しぐれのえん」2冊。貞享元年「あまやどり」と改題。○2月、山岡元鄰「寶藏」5巻。謡春庵「吉野山独案内」6巻。○9月、「註画讃」再版。○浄瑠璃本、「田村將軍」。虎屋永閑正本「仙人龍王威勢静」。○「八種画譜」(翻刻)	
1672 寛文 12 壬子		○師宣「武家百人一首」。(署名「絵師菱川吉兵衛」、師宣落款の嚙矢)○2月、「黄檗山隠元咄」4巻。○3月、「一休閑東咄」3冊。「比翼連枝之由来」○4月、立圃「幼源氏」再版(江戸、挿絵は師宣か)。○6月、「有馬山名所記」(一名、「有馬私雨」5冊)○7月、「二十四孝抄」2巻。○8月「嵯峨問答」2巻。「天地麗気記」18巻。○10月、一無軒道治「高野山通念集」10冊(口絵)。○絵入本、瓢水子「狂歌咄」5冊。「保元平治物語」6巻。	丈山(90)
1673 延寶 1 癸丑 9/21 改元	玉蟾	○勘三郎、続狂言「四天王稚立」を興行。團十郎、14歳にて初舞台。金時を演ずる。○絵入本、師宣「まんじゅの前」3冊。浄瑠璃本「午王の姫」「小倉百人一首」。	勝重(?) 隠元(82)
1674 延寶 2 甲寅	賣茶翁 冠山 敬輔	○芭蕉桃青、薙髪して風羅坊と称す。江戸深川に住む。○2月、吉田半兵衛「都歳時記」5巻。○7月、「歌仙」○9月、山城四季物語」6巻。○仮名草子「三人法師」2冊。	守信(73) =探幽
1675 延寶 3 乙卯		○正月、一無軒道治「難波名所葦分船」6巻。○3月、師宣「源氏小鏡」3冊。○4月、太田叙親「南都名所集」10巻。○5月、吉田半兵衛「大日本王代記」。師宣「山茶やぶれ笠」。○浄瑠璃本、「爲義産宮詣」「景正いかつち論」。	
1676 延寶 4 丙辰	南海	○6月、繁尚、「絵馬額」(京都祇園社、旅所)○2月、山本洞雲「難波十二景」○3月、富尾似船「石山寺入相鐘」3冊。○4月、山岡元鄰「あま夜の友」(「小さかつき」の改題)○浄瑠璃本「江州石山寺源氏供養」「ごばん忠信」「鳥の千歳女」「和田酒盛」「頼光山入酒呑童子」○近江、石山寺開帳。	
1677 延寶 5 丁巳	常行	○正月、師宣「江戸雀」12巻(絵師菱川吉兵衛と署名、版元、鶴屋喜右衛門)。「うつぼ物語」30冊。「平家物語」12冊。○2月、師宣「義経記」8冊。○7月、江戸中町々踊はやる。華美のため、禁止となる。○浄瑠璃本、多数出版。	友雪(80)
1678 延寶 6 戊午	祐信	○正月、師宣「伊勢物語平詞」4冊。「絵本上々御の字」「古今役者物語」「吉原戀の道引」「出来齋京土産」7巻。○2月、師宣「女詩仙集」2巻。「奈良名所八重桜」12巻。○8月、「三都雀」5巻○9月、師宣風「名所方角抄」○多数の地誌書出版。一無軒道治「住吉相生物語」5冊。○浄瑠璃本、師宣か「三社詫宣の由来」「善光寺堂供養」「頼朝三島詣」。○山雪・永納「本朝画史」	
1679 延寶 7 己未	守國 珍重 探元	○正月、師宣か「一休品物語」3巻。「あふぎながし」3冊。○菱川吉兵衛「伊勢物語頭書抄」3巻。○7月、三田浄久「河内名所鑑」6巻。○8月、俳士蘆雪「難波鶴跡追」2冊。○10月、師宣風「新撰絵抄百人」○菱河師宣「自讃歌註」(「師宣」署名の嚙矢か)	
1680 延寶 8 庚申	春卜	○正月、「難波鑑」六冊。菱川吉兵衛画「人間不礼考」○二月、菱河師宣「和歌注撰抄」三冊。○三月師宣「餘景作り庭の図」○四月、師宣「小倉山百人一首」○十一月、「両大師縁起」二冊。	善雪(82) 後水尾院 (85)
1681 天和 1 辛酉 9/25 改元		○正月、「幼源氏」三版。○三月、「日蓮大聖人御伝記」十一冊。板元、京の中村五兵衛。○八月、畠山箕山「長崎土産」二冊。○九月、「京五経」(一名、「あかし物語」五冊)○師宣「卜養狂歌集」二巻。「難字訓蒙図彙」○京の清水寺にて開帳。山本角太夫の正本「清水寺開帳」。	立圃(71)*
1682 天和 2 壬戌		○正月二十一日、月直清親、村山座狂言の絵を京都祇園社に懸ける。○正月、浮世草子「好色一代男」八冊(井原西鶴作、蒔絵師源三郎画。江戸版の挿絵は師宣)師宣「屏風掛物絵鑑」三巻。「四季模様諸礼絵鑑」三巻。「西行和歌修業」三巻。「當世風流千代の友鶴」三冊。○二月、師宣「諸国名所歌すずめ」二冊。○六月、吉田半兵衛「平家物語」十二冊○七月、師宣「狂歌旅枕」二冊。「貞徳狂歌集」三冊。	闇齋(62)
1683 天和 3 癸亥	長春 玉燕 始興 南郭	○正月、師宣「定家藤川百首」○二月、吉田半兵衛画、山八作「風流嵯峨紅葉」四冊。師宣「日蓮聖人註画讃」二巻○五月、師宣「花鳥絵つくし」「美人絵つくし」吉田半兵衛「歌仙金玉抄」「嶋原大和こよみ」○七月、師宣「岩木絵つくし」三冊。「百人一首像讃抄」○九月、吉田半兵衛「有馬名所鑑」	
1684 貞享 1 甲子 2/21 改元		○師宣「浮世続」「団扇絵つくし」「大和侍農絵つくし」。吉田半兵衛「あまやどり」三冊。○三月、「武具訓蒙図彙」四冊。○十月、蒔絵師源三郎画、西鶴選「俳諧女歌仙」「好色二代男」。○師宣「好色一代男」(西鶴著)	
1685 貞享 2 乙丑	白隠	○正月、師宣「古今武士道絵つくし」「名古屋山三郎 男情の遊女」○二月、師宣「諸職絵本かがみ」三巻。○四月、師宣「源氏大和絵鑑」○六月、吉田半兵衛「稲野笹有馬小鑑」○七月、吉田半兵衛「伊勢物語」○八月、絵入本「新編鎌倉志」十二冊。○九月、松子「京羽二重」。	安信(73)
1686 貞享 3 丙寅	政信	○三月、吉田半兵衛「好色訓蒙図彙」○八月、狩野永敬画「本朝孝子伝」三巻。○九月、師宣「和歌の手引」五巻。「二十四孝諺解」「能訓蒙図彙」「諸国名所和歌百人一首」○吉田半兵衛画、西鶴作「好色一代女」「好色五人女」「好色三代男」。蒔絵師源三郎画、西鶴作「近代艶隠者」。	

1687 貞享 4 丁卯	團十郎 2	○鳥居清元（43）、大坂より江戸に移転。○鳥居彦兵衛、松月堂不角作「男色花の染衣」○一月、「女養訓蒙図彙」五巻。「源氏ひながた」○二月、「本朝美人鑑」五冊。○十一月、「難字訓蒙図彙」三冊。○師宣、其角「吉原五十四君」。西鶴「好色一代男」（江戸版）。吉田半兵衛「山路の露」○蒔絵師源三郎風「撰集抄」。	
1688 元禄 1 戊辰		○正月、長谷川等雲「画本寶鑑」六冊。○二月、宮川一翠子「瀟湘八景大全」二冊。○三月、居初都音女「女百人一首」。「當麻曼陀羅絵抄」四冊。○八月、「役行者縁起」三冊。○九月、「東海道名所記」六冊。○十月、「當麻曼陀羅白記撮要」二冊。○吉田半兵衛画、西鶴作「日本永代蔵」。半兵衛「庭訓往来」「こよみくさ」「衣更着物語」。	
1689 元禄 2 己巳		○正月、師宣「異形仙人絵本」三冊。石川流宣「江戸図鑑綱目」二巻。「絵図のはやし」三冊。○松月堂不角「江戸総鹿子」。西鶴「一目玉銚」。貝原益軒「本朝四勝記」。	
1690 元禄 3 庚午		○鳥居清元、市村座の看板を描く。○正月、師宣画「東海道分間絵図」五帖。○二月、「名所都鳥」八冊○三月、師宣画「江戸惣鹿子名所大全」六冊○四月、石川流宣画「枝珊瑚珠」五冊○七月、蒔絵師源三郎・吉田半兵衛「人倫訓蒙図絵」七冊○師宣画、土佐少椽正本「義経記」。	
1691 元禄 4 辛未	一蜂	○水木辰之助の鎗踊り。浄瑠璃本「水木辰之助鎗之の振舞」○正月、石川流宣画、磯貝舟也「日本賀濃子」十四冊○五月、師宣賀「餘景作り庭の図」再版「十二月の品定」。吉田半兵衛画「なぐさみ草」。海田相保画「西行四季物語」○九月、報恩寺の古和尚「続集仏道論衡図」。○狩野安信「画道要訣」○土佐光起「画法大全」（稿）	光起 (75)
1692 元禄 5 壬申		○友禅染め、始まる。○正月、宮崎友禅「餘情ひながた」。「物あらかひ」三冊。○三月、「敦賀名勝詩」○九月、中村榮成画「定家 名所百首」二冊。○絵入本、師房「女重宝記」五冊。「貞徳永代記」五冊。「善光寺如来縁起」四冊。中村榮成「用文章綱目」三冊。	半兵衛？
1693 元禄 6 癸酉	元丈 熊斐	○正月、「雨夜三盃機嫌」二巻（水木辰之助、萩野左馬の肖像画あり）。鳥居清信「四場居百人一首」（百人一首の歌人を俳優に擬したため、絶版処分）「伊勢物語絵抄」○六月、「男重宝記」○六月二十八日、其角、三圍社に雨乞の句を詠ず。○八月十五日、一蝶、入牢○十月、友竹画「真如堂縁起」（原圖、掃部助久國○十二月、「年中重宝記」	西鶴(52)

1694 元禄 7 甲戌	清倍	○「噂の草摺引」（鄙猥の書ゆえ、作者平三郎、彫師甚九郎、売人三左衛門、版木買取人仁兵衛の四人手鎖、入牢の刑となる）○師重「鹿の巻筆」（絶版著者鹿野武左衛門は伊豆大島へ流刑）○師宣「大和墨」三巻。流宣「正直ばなし」五冊。「江戸名所はなし」八冊。「武家重宝記」五冊。「金持重宝記」	師宣(65) 洞雲 (70) 芭蕉 (51) 益信 (70)
1695 元禄 8 乙亥		○正月、師宣の遺著「和國百女」三冊。「本朝貞女物語」五冊。○三月、居初つな女画「女実語教」二冊。○四月、師宣の遺著「風流姿絵百人一首」三冊○九月、「世語重宝記」五冊。「永代重宝記」六冊	円空 (64) 志津磨 (77)
1696 元禄 9 丙子		○永代橋、架設。○市川團十郎、鍾馗に扮する。役者一枚絵の始まり（値、五文）。正徳ころまで行なわれる。○正月、師宣「倭國名所鑑」再版。長谷川等碩画「寢覚の友」○四月、師宣風「光悦歌仙やまと抄」二冊（光悦は角書）○六月十九日、江戸大地震。	
1697 元禄 1 0 丁丑	重長 百川 真淵	○下谷、五條天神社造営（上野山下）○正月、鳥居庄兵衛画「本朝二十四孝」三巻。杉村次兵衛画「御成敗式目絵抄」。一休和尚自画自賛「仏鬼軍」刊行（もと絵巻物）○鳥居清信画の狂言本「恵方男勢梅宿」「参会名古屋」「浅黄裕黒小袖」「兵根元曾我」	永納 (67) 冬基 (50)
1698 元禄 1 1 戊寅	一舟 明霞	○正月、「新女歌仙」。石川流宣「日本鹿子」十二冊。○二月、師房？画「壺の石文」十三巻。○十二月、一蝶、流謫（「朝妻舟」を描いたため）○石川流宣画「好色俗むらさき」○鳥居清信画の狂言本「関東小禄」「雲絶間名残月」「源平雷伝記」。	
1699 元禄 1 2 己卯	蘆舟	○正月、大森善清画の枕本「平家物語」○七月、隠家の茂睡の家集「梨本集」○鳥居清信画の狂言本「一心女雷神」「五頭大伴魔形」。	幸仁 (44)
1700 元禄 1 3 庚辰	親和	○東坡軒（「野郎舞姿記評林」記載）○水木辰之助、山村長太夫、七変化の所作を始める。○二月、中川喜雲「鎌倉物語」五冊。古 和尚「圓光大師伝」四十八巻○三月、鳥居清信画「風流四方屏風」二冊○四月、清信画「娼妓画帳」（「寸錦雜綴」記載）○役者評判記「萬年記」○狂言本、清信画「和國御翠殿」「薄雪今中将姫」「景政雷問答」。「京ひながた」「丹州千年狐」。	
1701 元禄 1 4 辛巳	風月堂	○三月、「曾我物語」（大字絵入本）十二冊。○三月十四日、赤穂の浪士、吉良邸に討ち入り。○六月、植木庄藏画「摂陽群談」十七巻（大坂）○八月、「能之訓蒙図彙」○都の錦作「御前伽婢子」。狂言本、清信？「傾城王昭君」「頼政萬年曆」「傾城三鱗形」「三世道成寺」。○光琳、法橋となる一光琳文書	
1702 元禄 1 5 壬午	也有	○正月、大森善清画「しだれ柳」二巻（版元、京都金屋平右衛門）。「壬生寺縁起」三巻。伊藤勘兵衛画「伊勢物語」二冊。○四月二十八日、鳥居清元没	清元(58)

1703 元禄 1 6 癸未	源信	○二月四日、浅野家四十七士自尽。○五月「勝尾寺縁起」二冊。「日親上人徳行記」二冊。○六月、「武家百人一首」○狂言本、清信画「小栗かなめ石」「小栗十二段」「傾城浅間曾我」「成田山分身不動」○十一月二十二日、江戸大地震。	
1704 寶永 1 甲申	淇園 若冲が村 宗固	○政信「養老瀧」(未見) ○六月、「嶋原合戦記」三冊。のち、絶版処分。○十一月、弄古軒菅秋「長崎蟲眼鏡」○浄瑠璃本、宇治加賀掾の正本「雁金文七三年忌」「遊女誠草」「傾城角田川」。	花山院 (65) 團十郎 (45)
1705 寶永 2 乙酉	廣守	○四月、浮世草子、吉田半兵衛画「好色花すすき」「一休可笑記」五冊。○「雛型京の水」「雛形み井の草」○狂言本、「けいせい吉長染」「早咲隅田川」「ささやき竹の草紙」。	具慶 (75)
1706 寶永 3 丙戌	清倍 2	○正月、政信、浄瑠璃本「勇将御伽婢子」、浮世草子「和気の裏甲」○四月、宮川長春画「狂女」(相州市場の観音堂の額) ○五月、「兼好諸国物語」六冊。○狂言本、「大屋形世継曾我」「西行歌枕」。	
1707 寶永 4 丁亥	祐尹 嵩之	○正月、友禅画「梶の葉」(祇園梶子の家集)。政信作画「若草源氏物語」○五月、雪翠画、歌書「渚の玉」○政信画、浮世草子「男色比翼鳥」○浄瑠璃本「二河白道」「東鑑三代將軍」。狂言本「女帝あいごの若」「清原二見桜」「傾情願本尊」「水からくり」。	其角 (47) 嵐雪 (54) 若芝 (79)
1708 寶永 5 戊子	卯雲	○四月、俳人、芳賀一晶没す。○正月、祐信画、浮世草子「本朝古今新堪忍記」(祐信の絵入本の嚆矢か) ○政信「関東名残の袂」○流宣画「江戸案内巡見図鑑」○二月、清経画「花陽ひいなかた綱目」(鳥居清経とは別人) ○狂言本、「愛兄隅田川」「凱陣十二段」。政信画? 「唐太宗」。	一晶 岑信 (47)
1709 寶永 6 己丑		○正月、政信「紅白源氏物語」六巻。浮世草子「寛■色羽二重」五冊。「風流鏡が池」六冊。流宣画作「吉原大黒舞」○九月、一蝶、流謫地より戻る(一蝶、はじめ、多賀朝湖と称すが、これより一蝶) ○狂言本、「結ぶのおん神」「都のお山吉野狂女」。	秀石 (69)

1710 寶永 7 庚寅	雪鼎 丹邱	正月、政信「若草源氏物語」再版○狂言本、「傾城伊豆日記」「藪入隅田川」「改春曾我」。	
1711 正徳 1 辛卯	豊信 團十郎 4	○友禅、没す(友禅は染工にあらず、扇工なり) ○四月、八文字自笑作(祐信画か)の浮世草子「傾城禁短気」六冊。○説教節「山椒太夫」、浄瑠璃「伏見常盤」「鎌田兵衛政清」。狂言本「けいせい逆澤湯」「稻荷長者代継丸」。	友禅
1712 正徳 2 壬辰	石燕 浚明	○仙花堂重長画「死霊解脱物語」再版(原版は元禄三年刊) ○八月、兼好法師行状「種生伝」○狂言本「桜谷血達磨」「行基菩薩誕生記」「武道心中比」	
1713 正徳 3 癸巳		○正月、躍鷺軒流宣画作「吉原七福神」五冊。○三月、光榮画、草花絵本「福寿草」三冊○五月、紅葉山文庫新築(桜田邸=元甲府邸の本を移す) ○六段本、近藤清信「源平両輪后」。懐月堂風「たるいおせん江戸物ぐるい」。狂言本「耆婆誕生記」「錦戸大合戦」「五穀色紙」「己午大竈」。	常信 (78)
1714 正徳 4 甲午		○八月二日、師宣没、七十七歳(「増訂武江年表」によるが信じがたい) ○正月、松根高當画「雛型祇園林」○三月、懐月堂安慶(俗称源七)伊豆大島に流刑(俳優生島新五郎事件による。木挽町山村長太夫芝居、断絶) ○五月、橘守國「絵本故事談」八巻○政信の六段本「愛護の若」。	益軒 (85)
1715 正徳 5 乙未	雪溪 貞丈 文耕	○九月、西山淡水画「絵本良材」十巻○川島叙清画「それぞれ草」二冊、「和漢合類絵本鑑」五巻○狂言本「まんぼう千年松」「けいせい足曳山」「けいせい金龍山」「けいせい因幡の松」	許六 (60)
1716 享保 1 丙申	若冲 蕪村 不白	○六月二日、光琳、没す。(六十二、或いは五十九) ○正月、大森善清画「新うす雪物語」五巻○七月河邊隆爲画「親鸞上人絵詞伝」三冊○狂言本「秀平五代記」「公平いさみ大黒」「公平天狗問答」「御評判鳥邊山心中」。○享保の改革(吉宗)	光琳 (59) 清倍 (23)
1717 享保 2 丁酉	保國 高陽 尚実	○正月、吉川盛信画「忠義太平記大全」十二巻(盛信は京都の絵師)。珍重画の狂言本「柏木右衛門古今集」「富士権現筑波の由来」。 ■=石+間	古■ (65)
1718 享保 3 戊戌	春信 蓼太 川柳	○正月、中路定年「対類二十四孝」○五月、染物絵師、井村勝吉「絵本稽古帳」三巻○狂言本「西國太平記」「出世太平記」。	
1719 享保 4 己亥	凉岱 慶子 大典	○十二月、俳士天野桃鄰○正月、橘守國画「唐土訓蒙図彙」十五冊。川嶋叙清画「それぞれ草」三巻○五月、鳥居清朝画「俳諧田植塚」二巻○十一月、「本朝武家図象伝」前編六巻○狂言本、「恵美酒本地」「弘法大師之御本地」。	

1720 享保 5 庚子		○この頃、菱川師房没か ○正月、羽川珍重画「吉原丸鑑」三巻 ○六月、大岡春卜画「和漢名筆画本手鑑」六巻 ○九月、橘守國画「絵本寫寶袋」九巻○「鳥羽絵三國志」。	
1721 享保 6 辛丑	月僊 幽汀 團十郎 3 小松軒	○正月、政信「若草物語」二冊。石河流宣画「関東和讃 題目」。羽川珍重の赤本「三國志」。政信画の六段本「頼 光山入」 ○六月、林守篤著「画筌」○七月、出版届け出の布令。	
1722 享保 7 壬寅	大江丸 鶴亭 高芙蓉	○正月、川嶋重信画「守武世中百首絵抄」（京都の絵師、八文字屋本の挿画を多く描く） ○一蝶、清信、狩野興栄 画「俳度曲集」（俳人水間沾徳撰の俳書） ○近藤清春の六段本「新田四天王」 ○十二月七日、心中ものの読売禁 止の布令 ○十二月十六日、好色本の絶版（天野信景「鹽尻」	
1723 享保 8 癸卯	賀邸 大雅 北海 魚彦 蘆庵 良沢	○懐月堂、没す（一説） ○正月、祐信画「百人女郎品定」二巻、板元、八文字屋八右衛門（京都）○二月、奥山 常則（土佐派）「澄禅和尚行状記」三巻 ○十一月、菊岡沾涼著、鳥居清信画の俳書「百花實」。	
1724 享保 9 甲辰	蘇門 木網	○正月十三日、一蝶没す（「近世奇跡考」） ○正月、一蝶画「類姓草画」 ○五月、望月勘助画「都良香」（京都祇 園社の額） ○正月出版の絵入本は皆無、京の鶯作「狂歌仙」二巻。	一蝶(73) 近松(72)
1725 享保 10 乙巳	春信○ 半二		白石(69)

1726 享保 11 丙午	春章 文調 東作	○俳諧師、水間沾徳、没す、六十二歳 ○俳人、園女没す、六十三歳 ○正月、江月堂画「発句 百人染」二巻。	
1727 享保 12 丁未	蘭山	○二月、橘守國画「画典通考」十巻 ○九月、中嶋丹次郎画「絵本心の種」三巻（大坂の染物師） ○近藤清春の赤本「猿蟹合戦」（目附絵を描く）。川嶋叙清画「さゆり葉」（祇園の百合女の歌集 ） ○十一月、白子屋おくま事件落着。○「田舎荘子」「商人夜話」	
1728 享保 13 戊申	源内	○正月、清春「諸芸評判金の」、板元、奥村源六○三月、梅松軒著「比翼玉のかんざし」二冊、 板元、中村三郎兵衛（京の簪屋、広告に応用） ○十一月、佐久間洞 画「鹽竈名勝考」「松島名 勝考」（仙台の画師） ○「絵本からくり時計」「絵本草双紙行」「絵本花見猿」。○「再来田舎一休 」「本津草」。	周信(69) =如川 徂來(63)
1729 享保 14 己酉		○清信、没す、六十六歳 ○この頃、川嶋重信、没す（一説） ○正月、祐信「絵本答話鑑」三巻 。「教戒女家訓」三巻。清春「伊勢物語」二巻 ○六月、石仲子守範画「画図百花鳥」五冊（守範 は狩野探雪の門人） ○十月、片岡喜平画作「絵本愛子車」三巻。	清信(66) 探山(75)
1730 享保 15 庚戌	嵩谷 栄川院 蕭白 宣長	○正月、川枝豊信「からくり訓蒙鑑草」三巻（京都）。長谷川光信画「絵本御伽品鏡」三巻（大坂 ）。○二月、小川破笠画、英一蜂画「父の恩」二巻（市川團十郎追善、彩色摺りの早いもの）○八 月、祐信「絵本常盤草」三巻。橘守國「絵本通寶志」九巻。○九月、中島丹次郎画「雛形宿之梅」 三冊。○十二月、高木貞武画「野山の錦」二巻。	
1731 享保 16 辛亥	三陀羅 龍水	○正月、祐信「絵本諭艸」三巻（「絵本答話鑑」の後編）。中路定年画作「画本図貨」三巻。○近 藤清春画「酒餅論」「當流小謡断錦集」。○十月、吉原萬字屋又右衛門、京島原より遊女を抱える。 ○沈南蘋、来日一長崎志	
1732 享保 17 壬子	東江 梅崖	○正月、祐信画「女中風俗玉鏡」二巻。「咲顔福の門」五巻。高木定武「絵本御伽草」三巻。○五 月、福王雪岑、二代英一蝶、懐月堂指水画「倉の衆」（俳士、豊嶋露月撰）三冊。○七月、染物絵 師、野々村通正「雛形染色の山」三冊。	
1733 享保 18 癸丑	応拳 玄白 蒿溪	○正月、祐信「絵本美奈能川」三巻。○九月、英一蝶、福王雪岑画「絵本東名物鹿子」（俳士、露 月撰）三巻 ○川島叙清画「商人軍配記」。	
1734 享保 19 甲寅	秋成 裏住 栗山 素外 治助 淇園ミガリ	○正月、政信「絵本金龍山浅草千本桜」二巻。祐信「最明寺殿教訓百首」三巻。高木貞武「絵本 武勇誉艸」三巻。○四月二十四日、俳人、千山没す（紀伊國屋文左衛門） ○七月、長谷川光信「 絵本武勇力艸」三巻。○八月、高木貞武「画本和歌浦」三巻。○九月十日、俳人、桑岡貞佐、没 す、六十五歳。○大坂の豊竹肥前掾、江戸に下り義太夫節を演ずる。	

1735 享保 20 乙卯	喜三二 葛蛇玉 豊春○ 清満○ 千蔭	○川島叙清、川枝豊信、没す（一説）○力士、丸山権太左衛門、長崎にて没す。○正月、橘守國「謡曲画誌」十巻。○四月、野々村忠兵衛画「絵本道知邊」（光琳風の模様画を染物に応用）○七月、橘守國画「扶桑画譜」五巻。	広沢（78）
1736 元文 1 丙辰	兼葭堂	○正月、祐信「絵本有磯海」三巻。「絵本つたかつら」三巻。「四季形勢歌」三巻。 ■=唯（口→山）	友禪（83） 東■（67）
1737 元文 2 丁巳	玉山 ^{カガ} 通笑	○十一月十一日、二世一蝶（長八一蝶）、没す。○六月、大岡春ト「画本福寿草」五巻。○八月、祐信「絵本磯馴松」三巻。大岡道信「押絵手鑑」三巻。○十二月、西村重信（孫三郎、石川豊信の初名）「女今川」○祐信画、甘霖作「口合算盤珍日記」（市中に出たのは元文四年正月）	
1738 元文 3 戊午	菅江 白雄 子平 六兵衛	○正月、祐信「絵本勇者鑑」三巻。甘霖「筆勢武者硯」五巻（大坂）。○飛鳥山に桜を植える。	
1739 元文 4 己未	重政○	○正月、祐信「絵本浅香山」「絵本池の心」。辻永寿画「絵本たはむれ草」三巻、板元、西村源六。○二月、御衣裳絵師、堀井軒（井上景堪）「花結錦絵合」二巻（京都）	

1740 元文 5 庚申	道八	○重政、生まれる（一説）○正月、祐信「絵本徒然草」三巻。○四月、橘守國「絵本鶯宿梅」七巻。○五月、重長画「吾妻海道」（俳書）○七月、狩野雪静「画巧潜覧」六巻。○九月一日、豊後節元祖、宮古路豊後掾、没す。	
1741 寛保 1 辛酉 3/3	几董 團十郎 5 =白猿	○正月、祐信「絵本朝日山」三巻。○三月、祐信「絵本千代見艸」三巻。	常行（65）
1742 寛保 2 壬戌		○正月、祐信「絵本和泉川」、「絵本姫小松」。○二月、祐信「女教文章鑑」（口絵、彩色摺り）○五月、高木貞武「絵本勇武誉艸」。○春日の大宮若宮の大祭礼あり。五月、藤惇画作、板元、奈良伊勢屋庄六。	利信(35) 團十郎 3 (2 2)
1743 寛保 3 癸亥	春章○ 春好○ 橘洲 焉馬	○六月、祐信「絵本大和錦」三巻。○勸進比丘尼の中宿停止となる（ある比丘尼、桜田あたりの武士と情死のため）。(雁註) 春章の享年、五十歳と判明。このため、生年は寛保 3。	乾山（81） 玉燕（61） 寂明（81）
1744 延享 1 甲子 2/19	春町 参和 米山人 利明 董九如	○芝神明前の江見屋（上村吉左衛門）、「見当」を発明（蜀山人「一話一言」による。此以前、享保十五年「父の恩」に彩色摺りあり）。○黒本、始めて出る。○五月、寺井重信画「女文臺綾袋」○西田常清画「風俗遊仙窟」（浮世草子）。	若元（77）
1745 延享 2 乙丑	玉堂 内子 忠敬	○正月、祐信「絵本ひめつばき」「絵本若草山」「絵本福祿寿」。○十一月、橘守國「絵本直指寶」十冊。	明霞（48）
1746 延享 3 丙寅	春水 ^ヲ 保己一 春海 栲亭	○正月、祐信「絵本鶴の棲」「絵本都草紙」。富川房信画「白鼠妹背の中立」（黒本）○大岡春ト模本「明朝紫硯」（支那明代の画集、初版本「明朝生动画図」、彩色摺りの珍本）	
1747 延享 4 丁卯	文調 ^c 江漢 介石 可笑 平八郎 玉州 洞春 韓天寿 源■ 五瓶	○六月三日、小川破笠、没す。○俳人、菊岡沾涼、没す。○正月、祐信「絵本河名草」「絵本亀尾山」「絵本筆津花」。奥村政房画「盛掛け両面鑑」（黒本）。鳥居清経画作「近江源氏よつぎの雛形」（黒本）○十一月、寺井重信画「女文章都織」。北尾雪坑齋「小倉塵」。○三月の頃、不忍池に茶店、楊弓場、講釈場が出来繁盛。 ■=王+奇	破笠(85) 静山（83）

1748 寛延 1 戊辰 7/18	田善 曙山 蘆朝 茶山	○正月、祐信「絵本貝歌仙」「絵本花の鏡」「絵本十寸鏡」。北尾辰宣画「小倉塵」（大坂、「擅画」と署名）。山本重春画作「紅血缺血昔物語」（黒本）。○長谷川光信画「大学倭絵抄」。○「芥子園画伝」（翻刻）	守國(70)
1749 寛延 2 己巳	赤良 狙仙 艶鏡 義躬 直武 岸駒 関月 芙蓉 <small>双キ</small> 楚満人 <small>ヒト</small> 湖鯉鮒 成美	○読本の嚆矢、都賀庭鐘（近路行者）作「古今奇談英草紙」（竹原春朝齋画か）○正月、寺井重房「絵本浜真砂」。祐信「絵本小倉山」「絵本武者備考」「絵本勇武鑑」。○二月、祐信「雑遊の記」「貝合の記」。○七月、守國「有馬勝景図」。○九月、守國「運筆粗図」。○雑司が谷、鬼子母神境内に孝女久米、麦藁の角兵衛獅子を売り始める。○不忍池の島より西茅町の裏へ板橋を四ツ折にして架橋する。水に映り、八ツに見えるため、八ツ橋と呼ぶ。池の鯉、多く死んだため、すぐ壊す。	

1750 寛延 3 庚午	唐丸(蔦屋) 在中 全交 谷峨	○正月、清満画「化物義経記」(黒本)。祐信「絵本垣衣草」。寺井重房「絵本千賀浦」。北尾辰宣「絵本信夫摺」「絵本教訓草」。大岡春ト「和漢名画苑」。○九月、法眼周山「和漢名筆画英」。○十二月、寧齋温然「鏡中図」(鞞画) =エイ	尚信(44)
1751 寶曆 1 辛未 11・3 改元	金埒 不昧フマイ 守礼 仙■ 甫周 鷹山ヨウザン 徳三	○此年より吉原に女芸者といふもの出る。○山本義信「吉原細見里巡礼」○正月、中路定年(京都の画家にして、雲岫と号せり)「画本必用」。長谷川光信「絵本藤の縁」○七月、大岡春ト「画史会要」○九月、山田信齋撰「二十四輩図彙」○十一月、寺井雪蕉齋「画本拾葉」。○彭城百川「元明画人考」 ■=崖一山	祐信(81) 南海(76)
1752 寶曆 2 壬申	清長○ 北山 月溪 鵬齋	○正月、山本義信画作「酒田金平渡辺竹綱鬼熊退治」(黒本)。石川豊信「絵本東の森」「絵本ことわざ草」。西川祐尹「絵本鏡百首」「絵本花の宴」。長谷川光信「絵本かがみ伽」「絵本今様比事」。○九月、高木貞武「本朝画林」。○十一月、西村重長「桃太郎物語」○十二月、岡山友杏「絵本艶歌仙」○此年、劇場にて販ける所謂芝居番付と称する狂言絵本出づ。中村勘三郎坐の七月狂言「諸たつな奥州黒」(二冊、鶴屋版、画工の署名なし。清倍か)○此年六月二十二日より池の端新地の茶屋五十九軒、其の外、家数餘多引払いを命ぜらる。多くの女を抱へ置きて猥りなる事ありしゆゑなりといふ。	百川(56) 清信2(51)
1753 寶曆 3 癸酉	哥麿○ 眞顔キョウカ 雅望メシモリ 頼川 惟信 豊雅	○正月、祐信遺画「絵本雪月花」「絵本糸ざくら」。西川祐尹「絵本鏡百首」「絵本みつの友」「絵本勇士艸」「絵本唐詩仙」。月岡雪鼎「絵本龍田山」「伊勢物語」。北尾雪坑齋「絵本謡姿」「絵本大江岸」。寺井重房「画凶伊勢海」。長谷川光信「絵本えくぼのちり」。○五月、大岡春ト「丹青錦囊」。○六月、重長「絵本江戸土産」。○十月、春ト「ト翁新画」。○此年、皎天齋國雄「女筆蘆間鶴」。○三月十三日より九月晦日まで、薩摩外記座にて、からくり人形芝居興業。	珍重 清春 不角(92) 祇徳 長春(71) 尊純(63)
1754 寶曆 4 甲戌	頭光ツムリ 七五三助 真澄 元成	○七月二十二日、羽川珍重没す。行年七十七歳。○清重「寶寺富貴の槌」(黒本)。○正月、雪鼎「絵本言葉花」。西川祐尹「絵本かほよ花」「絵本硯の海」。北尾雪坑齋「絵本武者海」。○四月、長谷川光信「日本山海名物図絵」五巻。○十一月、北尾辰宣「絵本武者兵林」。○鳥居清満「阜需曾我橘」二巻(市村羽左衛門座の狂言絵本、版元鶴喜)。西村重長「百千鳥艶郷曾我」(中村座の狂言絵本)。	珍重(77)
1755 寶曆 5 乙亥	市人伊ト 玄随 雅嘉 南北4 蘆雪	○正月、雪鼎「絵本和歌園」「絵本武勇名取川」。西川祐尹「絵本氷面鏡」。北尾雪坑齋「絵本浦千鳥」。長谷川光信「絵本都鄙問答」。漕川小舟「見立百花鳥」。可耕画「絵穂風流庭訓」。大岡春ト「画本福寿草」。○八月、橘保國「絵本野山草」。○三月十六日より深川永代寺にて、信州戸隠明神九頭龍権現開帳。この時神楽を舞ふ神子美人の聞こえあり。其名をおゑんといふ。踊り子の事を俗におゑんといふ諺はこれより生まれりといふ。	始興(73) 敬輔(82) 玉蟾(83)
1756 寶曆 6 丙子	栄之○ 中良村ヲ 友汀	○六月、黒川亀玉没す。行年五十五歳。或いはいふ五十八歳と。或いはいふ二十五歳と。○正月、雪鼎「絵本好禁酒宴桜」。東嬰画「絵本七寶珠」。北尾雪坑齋「絵本倭論語」。長谷川光信「絵本鎧歌仙」○六月、雛本「古筆絵図」(版元、京都、吉田善五郎)。○勝間龍水、英一蜂「発句帳」(未見)。○古面堂「続百化鳥」(前編は前年の刊行、絵師、漕川小舟)○此年、本郷新町家の畠、町家に改まり、料理茶屋を出し、女を抱えて酌を取らせる。世人、大根畑と呼ぶ。	亀玉(55) 重長(80s)
1757 寶曆 7 丁丑	俊満○ 玄沢(磐水)	○三月、上野清水堂開帳。画工雪仙齋尚徳「景清牢破り」(額)。○正月、豊信「絵本末摘花」。西川祐尹「絵本常盤謎」。寺井重房「吾妻百人寶艸」。中山吾八「画本時勢鑑」。松村文助「画本諷見立艸」。茂義堂「絵本深名帳」。文月堂「画本洛陽祭礼鑑」○二月、寺井重房「絵本和歌緑」○九月、仙華堂百寿画「和漢衆画苑」。○洒落本の嚆矢、「異素六帖」。	蘆舟(59) 團十郎2(81)
1758 寶曆 8 戊寅	定信 徳瓶 良寛 弘賢	○正月、西川祐信の遺書「絵本三津輪草」。寺井重房「百人一首浪花梅」。月岡雪鼎「絵本姫文庫」「花福百人一首」。北尾雪坑齋「絵本玉の池」。○怡顔齋松岡玄達「桜品」「介品」。○一松子画「春のみなと」。	淇園(55) ヤギヲ 祐尹 文耕(58)
1759 寶曆 9 己卯	五十八 一珪 川柳2 素絢	○正月、春川師宣画「絵本列仙画典」(江戸、辻村五兵衛再刊。元版は元禄二年、菱川師宣「異形仙人絵つくし」)○正月、豊信「絵本武勇太図那」。○七月、春川甫政「描金画斧」。○十月、雪鼎「絵本高名二葉草」。龍水、嵩谷「桑岡集」(俳書)。	南郭(77)

1760 寶曆 10 庚辰	北齋○ 定丸 鬼武 静山マツヲ 訥言トツゲン	○四月二十八日、英一蜂、没す。行年六十四歳。○正月、勝川春水「絵本武者軍鑑」。雪鼎「絵本神武百将伝」。長谷川光信「絵穂きま草」。○重政（二十三歳）「絵穂荒獅山」。	一蜂(70)
1761 寶曆 11 辛巳	政演○ 巢兆 抱一	○正月、富川吟雪画作「女敵討故郷錦」。勝川春水「絵本友千鳥」。武村祐代「絵本長柄川」「絵本初音森」「絵穂恵方謎」。月岡昌信「絵穂泰平楽」「絵本深見草」「絵本菊の水」「絵本諸礼訓」。寺井尚房「絵本勇名草」。長谷川光信「絵本初代草」。○五月、建部孟喬「寒葉齋画譜」。	元丈 (69)
1762 寶曆 12 壬午	春英○ 慈悲成 鞠塙 萬寶 理齋 蘭山カイ	○八月二十五日、西川祐尹、没す。行年五十七歳。○正月、雪鼎「東國名勝志」「雲水閣雜纂」。○二月、勝間龍水「絵本海之幸」。○十一月、豊信「女今川」。○清経「銀杏榮常盤八景」。	祐尹(57)
1763 寶曆 13 癸未	北寿○ 一茶 曳尾庵 文晁	○正月、春信「絵本古金襴」（春信の処女作なるが如し）。豊信「絵本花の緑」。勝川春水「絵本武者鑑」。西川祐代「絵本御代春」。月岡丹下「絵本勇見山」。○七月、西川祐代「女今川姫鏡」。○十二月、春信「絵本諸芸錦」。○六月、俳優荻野八重桐船に乗りて中洲に遊び、酔興の餘り蜆を取らんとして川へ下り立ち、深みへ落ち入りて溺死せり。風来山人「根なし草」といへる読本をつくりて其事を記述せり。	清倍 2(58) 春ト(84) 高遊外 (90) =賣茶翁
1764 明和 1 甲申 6・13 改元	政美○ 亀祐 龍磨 高尚	○正月、鳥居清秀画「車塚曾我物語」（黒本）。清倍「尋陽江世猩々」。清重「三鱗あけぼの染」。勝川春水「絵本万葉集」。豊信「絵本江戸紫」。月岡丹下「絵穂源氏山」「名数和歌選」。月岡錦童「画本蘭奢待」。○十二月、春信「絵本花葛羅」。北尾雪坑齋「絵本草錦」。	政信(79)
1765 明和 2 乙酉	豊廣○ 一九 錦城 如元	○此年、版木師金六、彩色摺を創む。蓋し、曲亭馬琴、北村節信等の説。○此年、絵曆、多く出づ。○正月、豊信「絵本千代の春」「絵本諭問答」。北尾雪坑齋「絵本緞摺草」「絵本恵の海」。勝間龍水「山幸」。重政「漢楚軍談絵尽」。○二月、勝川春水「絵本紅梅武者」。○七月、雪鼎画作「如月百人一首競鑑」。	
1766 明和 3 丙戌	應瑞	○正月、春信「絵本さざれ意志」。重政「絵本初日山」「絵本深みどり」。北尾雪坑齋「絵本盤手山」「女七寶操庫」。下河邊拾水「絵本二葉松」（京都）。探古齋「初心墨画草」（大坂）。○七月、雪鼎「画本操草」。○九月、北尾雪坑齋「倭百人一首玉柏」。○此年、亀戸、龍眼寺に萩を植える。○此年壺岸島埋立地成る（俗に蒟蒻島）。	
1767 明和 4 丁亥	馬琴 金鶏 詩仏 南岳 木米 蘆州 春暁齋	○正月、春信「絵本千代の松」「絵本春の友」「絵本童の的」。勝川春水「絵本金平武者」。重政「絵本多武岑」。○二月、下河邊拾水「絵本福緒縮」。○九月、北尾雪坑齋「彩色画選」（この書フキボカシの彩色にて世に彩色摺の嚆矢なりなどいふ説あり）「絵本文武談」「女類題小倉錦」。	探元 (89)
1768 明和 5 戊子	香樹 治助 2 長根 融思 彦磨呂	○二月十一日、奥村政信没す（「名人忌辰録」）○正月二十七日、英一舟没す（英一蝶の養子）。○此年、大雅堂画作（？）「春嚳折甲」。○正月、春信「絵本続江戸土産」（正編は重長、寶曆三年刊）「絵本八千代草」。重政「絵本吾妻花」「絵本藻鹽草」「画本歌雅美久左」。下河邊拾水「絵本高名鑑」。馬淵忠治「絵本軽口福笑」。柳原源次郎「絵本武者録」。	白隠 (84) 一舟 (71)
1769 明和 6 己丑	豊國○ 京山 五山 榛齋 薫 融川	○正月、重政「絵本浅むらさき」「絵本勲功艸」。春信「絵本武の林」。豊信「絵本八代の春」。下河邊拾水「倭詞接木花」。北尾雪坑齋「都百題女訓綱目」。○七月、馬淵仲二「絵本若菜種」。○此年、「明和伎鑑」（絶版）○四月八日、湯島境内にて、和泉石津大社笑姿（えみす）開帳。巫女、おなみ、おはつ、舞う。	探鯨 (80s) 真淵 (73) 蘇門 (46)

1770 明和 7 庚寅	春亭○ 牧之	○正月、鈴木春信画「よしはら美人合」四巻、「絵本浮世袋」二巻。春章、文調「絵本舞台扇」三巻（役者似顔絵本）。鈴木鄰松「一蝶画譜」。柳原源次郎「絵本深山猿」「増補國見山」。○十二月、豊信「絵本あけぼの艸」三巻。○春信、没一半日閑話	春信(46)
1771 明和 8 辛卯	北馬○ 慊堂	○春信「絵本春の錦」。重政「絵本さかえぐさ」。宮川春水「役者名物袖日記」。橘江「職人部類」。柳原源次郎画「絵本倭詩経」。陰山梅好画「狂歌浪花○」（大坂）。○十月、雪鼎画「和漢名筆金玉画府」六巻。○十一月、下河邊拾水「興歌百人一首嵯峨邊」。○大雅・蕪村／十便十宜一宜風図年紀	
1772 安永 1 壬辰	一齋 了阿	○七月三日、佐脇嵩之歿す。行年六十六歳。（英一蝶門人にして一翠齋、果々観、東窓齋等の号あり）○正月、守岡光信画「商人生業鑑」五巻。淇風楼画涼画「當世たわけばなし」。其蝶画「今様こけころも」（以上二武、浮世読本）。○五月、越秀齋照俊画「狂歌たからぶね」。○田沼意次、老中となる	嵩之(66) 熊斐(80)
1773 安永 2 癸巳	國政○ 豊彦 平々山人	○清長「江戸容儀曳綱坂」（市村座番付絵本、清長二十一歳）○正月、春章「絵本伊勢物語」「錦絵百人一首」。重政「絵本子育艸」「絵本義経記」。弄簾子画作「絵本江都二色」。○三月、英一蜂画「英筆百画」。○投扇庵好之撰、泉花堂三蝶画「投扇式」。春重（江漢、二十七歳）「俗談口拍子」。	
1774 安永 3 甲午	黙老	○正月、鳥山石燕「彩画鳥山彦」二冊（彩色は世にいふフキボカシなりといふ－安間貞翁の話－武江年表）。○重政「絵本よつるとき」。酔茶亭「文武智勇海」。○十月、山本越鳥齋「画図珍選」（大坂）。○子興（石燕社中）「俳諧午のいさみ」。○小田野直武／解体新書（挿絵）。	凌岱(56)
1775 安永 4 乙未	歌政○ 掖齋 徹山 栄信ガ ^ガ 南嶺 楠亭	○北齋「楽女好子」（北齋十五歳の彫り）。○大川中洲築立地、町名を三股富永町と称し、茶見世をかけならべる。○投壺の技流行る。（京都、大内熊耳の門人、田江南「投壺指揮」「投壺矢勢図解」。○恋川春町画作「金々先生栄華夢」二冊（青本の嚆矢とす）○正月、清長「風流物者附」（清長、二十四歳、処女作に非ず）。春信「教訓いろは歌」。春章「錦百人一首あづあ織」。下河邊拾水「児童教訓伊呂波歌」。○四月、下河邊拾水「花葉百人一首」。○政美（三治郎、十五歳）（逸題黄表紙）（榮邑堂版）。○中山高陽「画譚鶏肋」。	千代尼(73)
1776 安永 5 丙申	武清 篤胤 歌國 雪旦 三馬 五七	○正月、政美「天狗初庚申」（処女作、青本）。石燕「画図百鬼夜行」。重政、春章「青樓美人合姿鏡」三巻。重政「絵本千々武山」。拾水「絵本武者大仏桜」。○三月より秋の初めまで麻疹大いにはやりて人多く死す。為に際物として清長画「童麻疹のあと」二冊（青本）○三月、桜井桂月「画則」五巻（桂月は雪舟十三世の裔）	大雅(54)
1777 安永 6 丁酉	豊國2○ 清政○ 可楽 十江 菱湖 竹田 鯉丈 忠以 ^ガ ザネ	○北齋、十八歳にして春章の門に入る。○正月、石燕「水滸画潜覧」。湖龍齋「偏鉄挺論」。竹原春朝齋「狂歌寝ざめの花」。○七月、墨江武禅、高嵩谷、流光齋、蔀關月、桂宗信「狂歌ならびの岡」○久豊画「當世穴知鳥」。○茶屋女、桜川おせん（仙台路考とあだ名さる、浮世絵似顔絵あり）○小田野直武／不忍池図一下限（江戸在任）	内記広守(73)
1778 安永 7 戊戌	竹洞 海屋 在明 述齋 團十郎6	○正月、石燕「絵事比肩」。春章「絵本威武貴山」。高橋其計「絵本続舞台扇」。英一蝶原画、鈴木鄰松編「郡蝶画英」。○六月、石川幸元「俳諧鏡の花」。○九月、山川昭俊「狂歌無心抄」。○政演「おはな半七開帳利益札遊合」（十八歳、処女作、青本）○春常の画ける青本数多あり。世人誤りて春章と目す。○浦邊源曹、谷久和、芳川友幸、蘭徳齋春童など、数々の小説に画く。	團十郎4(68)
1779 安永 8 己亥	景文 阮甫 春琴 米庵	○哥麿、豊章と署して「寿々はらゐ」「おきみやげ」などの洒落本を画く。○正月、石燕「続百鬼」。豊信「絵本教訓種」。湖龍齋「役者手鑑」。拾水「画本瀧の流」。橘保國「絵本詠物選」。	風来山人 =源内(52)

1780 安永 9 庚子	北溪○ 山陽 義董 千春	○正月、重政「絵本武徳鑑」「和漢詞徳抄」。拾水「絵本雨宿り」。喜三二作、春町画「富留久知喜」。○九月、春朝齋「都名所図会」（名所図会の嚆矢）。○十月十五日、山岡明阿弥歿す。行年六十九歳。お母○十一月、耳鳥齋「絵本水や空」。○春朗「一生徳兵衛三の梅」（青本）「めぐる比翼塚」（北齋の処女作）。○南陀伽紫蘭「玉菊灯籠弁」（窪俊満、二十四歳）。	明阿弥(69) 直武(32) 高陽(64) 浚明(69)
1781 天明 1 辛丑 4・14 改元	守部	○湖龍齋「混雑倭艸画」。石燕「百鬼夜行拾遺」。重政「俳諧名知折」。○四月、鶴岡蘆水「隅田川兩岸一覽」。○八月、菱川春童「見た京物語」。○北齋是和齋「本性銘署有難通一字」。○豊章、歌麿と改名、志水燕十作「身貌大通神略縁記」。清長、如閑房「當世鳥の後」（浮世読本）。○永代寺にて鶴が岡八幡宮本地、愛染明王、頼朝公髻観世音開帳。巫女、おすて、美人にて錦絵に描かれる。	蕭白(52) 若冲(78) 加村
1782 天明 2 壬寅	岸岱 半江 淡窓	○清長「絵本武智袋」。耳鳥齋「画話耳鳥齋」。重政「絵本時津艸」「絵本将門一代記」「絵本八幡太郎一代記」。○三月「翠釜亭戯画譜」（俳優の似顔絵）。○春英「大坂土産大和錦」。春山「擲討鼻は上野」。○魚佛、是和齋の号（北齋）	親和(86) 魚彦(60)
1783 天明 3 癸卯	種彦 道八 2 与清 信節 梅逸	○正月、窪俊満「画鶴」。湖龍齋、春章、重政「両節■」。勝尾春政「絵本見立仮髻尽」。耳鳥齋「徒然■か川」。○七月、政演、政美「狂文寶合記」。○丹羽桃溪「みをつくし」。○司馬江漢、銅版画を創製。○天明の飢饉	蕪村(68) 可笑(37) 半二(59) 卯雲(76) 也有(82)
1784 天明 4 甲辰	華山ヨヤマ 二三治	○正月、石燕「百鬼徒然袋」「通俗図画勢勇談」。政演「吉原傾城新美人合自筆鑑」（六枚続き錦絵）。○古阿三蝶「大倭智恵親玉」「寿御夢想妙薬」「天光地潜地探」「八代目桃太郎」「三國一大通の本地」「其見乎有難山」「通世界二代浦島」（青本）。○六月、麻尚武「色摺巻紙合」。○流光齋「且生言語備」（大坂）。坂東薪水「梅幸集」。	高芙蓉(63) 玉瀾(57) 貞丈(70) 宗固(82)
1785 天明 5 乙巳	海僊 泉石 文京	○栄之「其由来光徳寺門」（青本）。○北齋、春朗を改めて、群馬亭と号す。○正月、清長「絵本物見岡」。重政「源氏百人一首錦織」。○八月、政美「江都名所図会」一卷。（藍摺りに朱と藤黄の彩色を用い世人に珍とせらる。）○九月、橘國雄「芳齋襖画」。○十一月、嶺琴舎慶子（瀬川富十郎）「慶子画譜」三巻。○春川友重「狂文棒歌撰」。つむり光「俳優風」。雪蕉齋「絵本拾葉」。○政演「令子洞房」（洒落本）。	清満(51) 豊信(75) 曙山(38) 鶴亭(64) 雪岑(85) 葛蛇玉(51) 丹邱(66)
1786 天明 6 丙午	國貞○ 清澄 杏所 慶賀 玄々堂	○正月、重政、春章「画本賣のいとすぢ」。重政「絵本吾妻袂」「絵本八十字治川」。哥麿「潮干のつと」「絵本江戸爵」。桂宗信、耳鳥齋、瀬川慶子「つべこべ草」。司馬江漢「六物新志」。○十月、下河邊拾水「源頼光昔物語」。○豊國「無束話親玉」（処女作）。○政演「後編小紋新法」。	雪鼎(77) 宋紫石(72) 幽汀(66) 慶子(68)
1787 天明 7 丁未	英山○ 重信○ 月齋 景保 尊徳	○正月、清長「彩色美津朝」。哥麿「絵本詞の花」。重政「絵本武者鞋」「絵本錦衣鳥」。政美「絵本吾孀鏡」「絵本都の錦」。○五月、哥麿「不仁野夫鑑」。○松平定信、老中となる。	春常 蓼太(70) 尚実(71)
1788 天明 8 戊申	清峯○ 戊申 容齋	○朋誠堂喜三二作、行麿画「文武二道萬石通」（青本、三冊）絶版の命を受く。○正月、哥麿「画本虫糸ラミ」。重政「絵本花異葉」「絵本琵琶湖」。○九月、長谷川光信「鳥羽絵扇的」。○十二月、橘石峯画「唐詩選画本」（五言絶句の部、五巻）○政てる（政演門人）「眞字手本義士の筆力」。勝川春泉「浮世草紙」。○豊丸「鳴通力」。礪川亭永◆「青樓五ツ雁金」。千杏「女郎買の糠味噌汁」。内田新好「一目土堤」。京傳「夜半の茶漬」（洒落本）。○京都、大火、刻版及び図書多く焼失せり。	石燕(77) 一峰 可有 賀邸(66)
1789 寛政 1 己酉	笑顔 星巖 文一 由豆流	○青本絶版処分のもの。春町作、政美画「鸚鵡返文武二道」（「文武二道萬石通」の後編）。唐来三和作、長喜画「天下一面鏡梅鉢」（以上二部、白河楽翁公の政策を風刺）。石部琴好作、政演画「黒白水鏡」（天明年間、佐野善左衛門が、老中田沼意知を刃傷に及びしを戯作）。「逸題、怪談草双紙」（大坂）○正月、春章「三十六歌仙」。重政「歴代武将通鑑」。○三月、政美「来禽図彙」。部關月「狂歌つのくみ草」。拾水「訓蒙図彙大成」。○八月、哥麿「狂月坊」。○此ころより、挿画ある図書、最も多く行なわれる。	春町(46) 東作(64) 几董(49)

1790 寛政 2 庚戌	英泉○ 美成 春水夕が 東里山人	○正月、哥麿「絵本駿河舞」。春章「絵本接穂の花」。春潮「絵本榮家種」。重政「絵本武将記録」。政美「絵本武隈松」。寺沢昌次「絵本武勇大功記」。○八月、三熊花顛「近世畸人伝」。○九月、雪鼎「女庭訓御所文庫」。○十月、流光齋「画本行潦」（大坂）。	典信(61) =栄川院 守礼(40) 川柳(73) 北海(68)
1791 寛政 3 辛亥	應爲 應震 團十郎 7	○正月、重政「絵本福寿草」。政美「画本纂怪興」。拾水「絵本千代の松」。○三月、京傳著「錦の裏」「娼妓絹飾」「仕掛文庫」の三部の表に特に教訓読本と記せし段不埒なりとて手鎖五十日の刑に処せられ、板元蔦屋重三郎は身上半減闕所に処せられる。○五月、春朝齋「大和名所図会」（大坂）。○餘夙夜「五経図彙」。高田圓乗「唐詩選画本」（五七言排律の部）。	旭山(59) 白雄(54)
1792 寛政 4 壬子	眞虎 椿年 光	○正月、哥麿「絵本銀世界」「絵本普賢像」「絵本和歌夷」。俊満、等琳「狂歌桑之弓」。拾水「忠孝曾我物語」。○皆川淇園、東山書画展を主催（毎年春秋、1792-98）。	春章(67) 保國(76) 百亀(80s)
1793 寛政 5 癸丑	國直○ 鐘成 華山ワカハ	○重政「唐詩選画本」七言絶句続編、「絵本将門一代記」。岡田玉山「絵本黄昏草」「絵穂太平廣記」。春朝齋「絵賛常の山」「鳥羽画あくびとめ」。○三月、勝山琢眼画「揚扇志」。○四月、狩野正榮「芭蕉翁絵詞伝」。○谷文晁／公余探勝図巻一落款○浮世絵に女性の名を書き入れることを禁止一類集撰要。	耳鳥齋 小松軒(74) 子平(56) 全交(44)
1794 寛政 6 甲寅	國安○	○日光廟造営あり。○大童山文五郎○正月、政美「絵本武勇一の筆」「女今川小倉文庫」。清線館主人「絵本世吉の物競」。流光齋「絵本花菖蒲」。京傳「絵兄弟」。柳々居辰齋「狂歌三十六歌仙」。○四月、北齋、叢春朗と署して「狂歌聯合女品定」。○六月、岡田玉山「住吉名勝図会」。○十二月、政美「諸職画鑑」。○一九作、京傳画「初役金烏帽子魚」（一九の処女作）○写楽、役者大首絵を描く（1794-95）。	思孝(65)
1795 寛政 7 乙卯	一蕙 翁満 金水 保全	○春章「絵本松のしらべ」（遺作）。春常「百體百人一首吾妻鑑」。重政「絵本たとへ草」。政美「教訓鄙都言種」。豊廣「狂歌三十六歌仙」。○栄之「怪物つれづれ雑談」（青本）。二代目春町（行町）「萬歳諷諸神柱立」（青本）。 ■ = 草冠 + 恵	應舉(63) 韓天寿(49) 玉山(52)
1796 寛政 8 丙辰	靄崖 一峨 養信 南北 5 其一	○北齋、百琳宗理と称す「帰化種」○正月、哥麿「絵本百千鳥」。慶遊齋歌政画「常棣」（俳句集）。春朝齋「和泉名所図会」。俊満、等琳「狂歌百さへづり」。岡田玉山「絵本頼光一代記」。○九月、春朝齋、春泉齋、桃溪、友汀、中和「摂津名所図会」前編四冊。（後編八冊は寛政十年刊）。○清線館蘆朝「絵本たのしみくさ」。	文調(70) 光(43) 源鱗(65) 龍水(66)
1797 寛政 9 丁巳	廣重○ 國芳○ 拙堂 保孝 雪麿	○正月、哥麿「絵本天の川」「絵本譬喩節」。北齋、重政、等琳「狂歌柳の絲」。緑毛齋榮保画「集外三十六歌仙」。梨本祐為画「職人尽発句合」。清長、春潮、春好、春英、豊國「美満寿組入」。二柳齋吉信「ころばぬ先の図会」。○五月、關月「伊勢参宮名所図会」。○八月、政美「鳥獸略画式」。○十一月、政美、春泉齋、友汀、中和、在正、素絢、訥言、応挙、応受、月溪、文鳴、光貞、艸偃、維恵、永俊、大雅堂、夙夜「東海道名所図会」。○長沢蘆雪／山姥図絵馬一銘 ■ = 王 + 奇	唐丸(48) 關月(51) 重三郎(48) 源■(51) 洞春(57)
1798 寛政 10 戊午	榕庵	○三馬作、哥麿画「辰巳婦言」（洒落本）絶版処分。○正月、重政「四季交加」。政美「絵本大江山」。拾水、春暁齋「絵本諸人道しるべ」。戀川吉町（石燕門人）画「画本賛獸録禽」。○仙台の蟻齋社中画「優游一寄」。	菅江(61) 玄隨(43) 團十郎 6 (2 1)
1799 寛政 11 己未	春村	○町奉行の布令、華美なる一枚絵・・・○北齋、宗理の称を門人宗二に譲り、北齋辰政と号す。○正月、北齋「江戸勝景東遊」。哥麿、豊國、国政「俳優楽室通」。關月「山海名産図会」（遺作）。国政、春好、春英、俵屋宗理「今日歌白猿一首」。○五月、中和、艸偃、文鳴「都林泉名勝図会」。○十月、政美「人物略画式」。○十二月、北齋、秀成「こずゑのゆき」。○司馬江漢「西洋画談」。	蘆雪(45) 玉州(53) 元融(67) 六兵衛(62)

1800 寛政12 庚申	豊芥子	○北溪画、鹽屋色主作「南門鼠」(洒落本)、絶版 処分となる。 ○ 正月、政美「山水略画式」「絵本太平記」。北齋「東都勝景一覽」。豊國「若紫」(狂歌書)。豊國「戲子名所図会」。一九画作「夷曲東日記」。北馬「狂歌花鳥集」。○七月、歌政「願廻糸」(名古屋)。○如圭「役者百人一衆化粧鏡」。○十二月、松好齋半兵衛「戲場楽屋図会」。○松平定信、文晁「集古十種」刊行開始。○伊能忠敬、蝦夷地を測量。	春朝齋 若冲(85) 義躬(52)
1801 享和1 辛酉 2・15 改元	椿山 一鳳 坦庵 磐溪	○六月、梨木祐爲歿す。○正月、哥麿「絵本四季花」。北齋、栄之「女房三十六人歌合」。豊國「俳優三階興」。鈴木芙蓉「熊野名勝図会」。○三月、松好齋半兵衛「嵐雛助死出の山風」。拾水、春泉齋「百人一笑」。○八月、宗理「插花衣の香」。○九月、竹原雲峰「戲場節用集」。○十一月、桃溪「河内名所図会」。○北齋、此年より画狂人と称せり。	祐爲(63) 顯常(83) 宣長(72) 蘆庵(79)
1802 享和2 壬戌	豊重 [⊖] =豊国 ²	○子興画、成三楼作「婦足禿(ふたりかむろ)」、絶版処分となる。中和画、籬島作「絵本年代記」初編五冊、絶版(版元、京都、出雲寺文次郎) ○京傳「浮世絵類考・追考」。○五月、木の元才荘、焼絵を再興し、会席を設く。○菊麿、喜久麿と改む。○正月、重政「絵本高麗嶽」。北齋「絵本東都遊」「絵本忠臣蔵」「五十鈴川狂歌車」。豊國「絵本時世粧」「俳優三十二相」。岡田玉山「実語教画本」。半兵衛「俳優兒手柏」。北齋画、富士唐麻呂編「潮来絶句集」。○二月、春暁齋「世渡名所図会」。北馬「狂歌まくらのうち」。○六月、俊満「狂歌左鞆絵」。○八月、中和「絵本年代記」。政美「魚貝譜」。	橘洲(60) 兼葭堂(67) 董九如(59)
1803 享和3 癸亥	鶴寿	○芝居絵本数多出版。一月、春英、豊国画、三馬作「戲場訓蒙図彙」八巻五冊。豊国画、篁竹里作「絵本戲場年中鑑」三冊、(劇道の秘密を洩らせしとて太夫元の苦情あり、絶版処分)。豊国画、焉馬作「役者此手嘉志和」二冊。如圭画「戲場画史」山水之部、二冊。画工不明「戲場一覽三座例遺誌」前編一冊。○此年、或いは前年、疱瘡、流行。一九作、貞之画「疱瘡請合軽口ばなし」(紅摺)。○高嵩溪信宜、額画「猩々舞」(浅草観音堂)。○正月、重政「絵本三鼎倭孔明」。京傳「奇妙図彙」。北齋「絵本小倉百句」。豊廣、豊國「御伽かのこ」。○六月、重政「絵本江戸桜」。辰齋「新撰狂歌五十人一首」。○十一月、耳鳥齋「かつらかさね」。	艶鏡(55) 良沢(81)
1804 文化1 甲子 2・19 改元	長英	○四月十三日、北齋、百二十畳敷の達磨を画く(音羽、護国寺) ○五月二十七日、岡田玉山「絵本太閤記」絶版(大坂)。○五月、春英、春亭、豊國、哥麿、月麿、手鎖五十日の刑(江戸)。○九月、「絵本拾遺信長記」絶版。○正月、哥麿「吉原青樓年中行事」。北齋「山また山」。豊春「絵本江戸錦」。豊廣「絵本東物語」。豊國「俳優相貌鏡」。如圭「役者用文章直指箱」。○八月、辰齋「狂歌巴流駒」。○十二月、武清画、京傳作「優曇華物語」(読本、應學の七難の画を参照。写生を加味し稀に見る妙画なれど、売れ行き少なかりし) ■=崖一山	嵩谷(75) 嵩雪 梅■(73) 道八(65)
1805 文化2 乙丑		○正月、重政「寫眞花鳥図会」。北齋「狂歌百轉」。○二月、松好齋「役者濱真砂」(大坂)。○三月、中和「木曾路名所図会」。○四月、辰齋「狂歌吾妻集」。○文晁「名山図譜」。抱一、文晁、武清、文一、鎬木雲譚、島田元旦、三好汝圭「名花交叢」。○喜久麿、月麿と改める。	五十八(47) 大江丸(84)
1806 文化3 乙丑	鴻山	○琉球人来朝、廣重十一歳にて其の行列を写生。○三月四日、政演の家宅(銀座)類焼。○浅草観音、大坂の人を日本堤で盗賊から守る。浮世絵あり。○正月、春暁齋「年中行事大成」。玉山「会席料理細工包丁」(大坂)。○三月、玉山、東野、熊岳「唐土名勝図会」(兼葭堂藏版)初集六冊、勝れて妙なり-英泉「無名翁随筆」) ○江戸大火。	哥麿(40s) 嵩溪(74) 融川(38) 白猿(66) =團十郎5 治助(73)
1807 文化4 丁卯	是真○ 貞秀○ 種員	○正月、春英「絵本勇壮義経録」。清長、豊國、春好、宗理、辰齋、北鷺「追善数珠親玉」。盈齋北岱「袖玉狂歌集」。春泉齋「遊女大学教草」。○八月、玉山「百人一首図絵」。	淇園(74) =皆川~ 金埒(57) 楚満人(59) 内子(63) 栗山(74) 不白(92)
1808 文化5 戊辰	文麟	○三月、政美「諺画苑」。○十月、中和「永平高祖行状記」。○北齋「三七全伝南柯夢」(本書、馬琴と葛藤する因由となる) ○馬琴作、北齋画「椿説弓張月」後編、続編。馬琴作「頼豪阿闍梨恠鼠伝」。小枝繁作「絵本壁落穂」。種彦作「近世怪異霜夜星」。芍薬亭作「國字鶴物語」。振鷺亭「安禰多羅賢物語」。酔月庵「由利雅苙居鷹」(以上、北齋画)	惟信(56) 千蔭(72) 五瓶(62)
1809 文化6 己巳	貞信ハガ ⁷ ○	○正月、豊廣画、京傳作「浮牡丹全伝」前編三巻四冊。牧墨僊「狂画苑」。○九月、北尾繁昌(重政)「狂歌百人一首」。春泉齋清秀「二十四輩順拝図会」。○益亭三友作、歌川文治画「花鳥風月仇討話」(文治、十五歳)	甫周(59) 秋成(76) 金鶏(43) 月僊(89) 中良(54)

1810 文化 7 庚午	洪庵	○正月、金藏画「筆始日出松」(金藏十二歳の処女作、豊廣の子、師は豊國、芝甘泉堂)。○北齋画「市村座顔見世狂言」(招牌)。○田善画「佃島」(額絵、須賀川の諏訪神社)。○宇多川國麿「画図戯場三體誌」。武清「歌仙絵抄」。辰齋、北齋、北馬、重政、雪旦「狂歌千もとの華」。○春扇「身振いろはげみ」。○三月、國房「相生百人一首姫競」。	武禪(73) 國政(38) 裏住(77) 徳三(60) 参和(67?) 蘭山(82)
1811 文化 8 辛未	雨の屋 象山ヨウザン	○國芳、十五歳にして豊國へ入門。○廣重、十五歳にして、豊廣へ入門。○重信画、種彦作「京一番娘羽子板」(重信の処女作)。○正月、春扇「下界頭会」。春亭「花江都歌舞妓年代記」。國貞「客者評判記」(國貞、二十六歳)。○五月、中和「紀伊國名所図会」初編。春好齋「三勝櫛赤根色指」(大坂)。○十月、北馬「十五番武者合竹馬のたづな」。俊満、辰齋、北馬、北溪、北壽「自讃狂歌集」。○二月、探古室墨海画「阿波名所図会」。○清長、豊國、春亭「江戸紫鼻眞鉢巻」。○玉堂/山水(煙霞帖)一自題。竹田/煙霞帖一跋。○吳春/白梅図屏風一下限(没)。○天文方の蕃書和解御用掛を設ける。	嵩谷? 吳春(60) 穎川(59) 春海(66) 木網(88)
1812 文化 9 壬申	泉晁○	○正月、北齋「略画早指南」。暁鐘成画「大門口鎧襲」。中和「紀伊國名所図会」二集。北馬「若緑岩代松」。○六月、雪旦「古画要覧」。○九月、北齋「画道独稽古」。豊國「東名残門出錦袖」。	玉山(76) =カガ 春好(70) 北山(61) 通笑(74)
1813 文化 10 癸酉	雪堤	○國直画、三馬作「昔語丹前風呂」(國直、十八歳)。○正月、北齋「傳心畫鏡」。政美「絵本孝経」。一九画作「絵本江戸名所」。秀麿「役者用文章」。堀田連山「絵本婚礼道しるべ」。石田玉山「定家撰錦葉集」(歌書)。○五月、辰齋、一九、柳齋、辰潮、京傳、三馬、北嵩、北馬、北壽、俊満、辰光、辰一、辰暁、秋「狂歌関東百題集」。○六月、政美「魚貝略画式」。○十月、政美「草花略画式」。○竹田「山中人饒舌」。	南岳(47) 十江(37) 文鳴* 喜三二(79) 南岳(47)
1814 文化 11 甲戌	永惠 関齋	○正月、北齋「北齋漫画」初編(企画は文化九年-序文)。政美「心機一掃」。○四月、中和「近江名所図会」。○九月、合川亭■和「漫画百女」。美丸「巢鴨名産菊の葉」。國丸「高祖大士眞実録」。○重信画、馬琴作「南總里見八犬傳」第一輯。○國芳画、竹塚東子作「御無事忠臣蔵」(國芳、十八歳。実際は前年、文化十癸酉弥生稿成-序文)	豊春(80) 春潮(?) 七五三助(61) 三陀羅(84) 巢兆(54)
1815 文化 12 乙亥	一信 草雲	○十一月、清峰、五代目清満と改める。○正月、北齋「絵本浄瑠璃絶句」。牧墨僊「墨僊叢画」。○四月、北齋「北齋漫画」二、三編、「踊独稽古」。○八月、狂画堂蘆洲「芝翫節用百戯通」(大坂)。○九月、豊國「四天王大坂入」。○十一月、谷本春泉齋「西山鑑知國師図会全傳」。○此年、豊廣画、馬琴作「朝夷巡島記」。	清長(64) 目吉(?) 友汀(60)
1816 文化 13 丙子		○九月七日、政演歿す。○此年、北齋、其の号、戴斗を、門人新吉原の引手茶屋の主人亀屋喜三郎に譲るといふ説あり。○正月、北齋「三體画譜」。魚屋北溪、磯野文齋「狂歌御國ぶり」。○四月、「北齋漫画」五編。○英泉画作「桜曇春朧夜」。	政演(56) 春水(71) ㄥ 成美(68) 芙蓉(68) 東子(?)
1817 文化 14 丁丑	玄魚 芳宗	○十月五日、北齋、名古屋滞在中、百二十疊敷の紙に達磨半身の大図を画く。○正月、「北齋漫画」四より八編まで五冊出版。豊國「役者似顔早稽古」。英泉「俳諧百人一句集」。○四月、北齋「画本早引」。	大浪(56) 玄白(85)
1818 文政 1 戊寅 4・22 改元	枕山	○十月二十一日、江漢、歿す。○北齋、伊勢より紀州に入り、それより京阪地方を遊歴せり。○正月、北齋「秀画一覽」。豊國、國貞、辰齋、戴一、國丸、國安、春亭、武清、玉山「以代美満壽」。北溪「東海道岐岨街道狂歌合」。○二月、北齋、立?好齋「萍水奇画」。○三月、國直「歌舞妓雑談」。○九月、戴斗「和語陰隲文絵抄」。○江漢/西洋人樽造図一下限(没)。	江漢(72) 素絢(60) 文一(30) 鬼武(59) 忠敬(74) 川柳2(60) 不昧(68)
1819 文政 2 己卯		○秋、淺草、奥山にて籠細工(大坂の一田正七郎) ○正月、「北齋漫画」九編より十一編。○四月、「北齋画式」。「画本早引」二編。○四月、北溪「狂歌五十人一首」。○十月、合川■和「通神画譜」。	重政(82) 義董(40)

1820 文政 3 庚辰	半山	○正月、廣重画、東里山人作「音曲情糸道」(廣重の処女作、二十四歳)。春亭「戯場百人一首」。五月、「北齋麿画」。○八月、貞房「見世ものがたり」。○十月、北溪「新居狂歌合」。	春亭(51) 俊満(64) 玉堂(76) 市人(66) 米山人(77)
1821 文政 4 辛巳		○春扇、二代春好と称す。○六月、江戸に駱駝二頭来る。閏八月九日より両国廣小路にて見世物となせり。「駱駝考」といへる著書出版の外、錦絵に多く画かる。○正月、北溪「狂歌読人名寄細見」。岳亭春信「狂歌読本詠奇譚」。○八月、春暁齋「男山放生会図録」。○北溪、英山、沖一峨、岳亭、千春「新曲撰狂歌集」。	洞白(50) 秋人(64) 狙仙(73) 保己一(76) 谷峨(72) 利明(78)
1822 文政 5 壬午	芳瀧	○投扇の戯、流行し、辻々に見世を構へ賭をなせしかば八月にいたりて禁制さる。○春、唐人踊り(カンカン踊り)の見世物。○此年、岳亭定岡画「狂歌三十六歌仙」「狂歌水滸伝」「狂歌評判記」。○田善/浅間山真景図屏風一下限(没)。	田善(75) 玄対(74) 三馬(47) 焉馬(80) 鷹山(72)
1823 文政 6 癸未	國貞 2 国政 2 椿岳 蓮杖 爲恭 團十郎 8	○正月、北齋「一筆画譜」「今様櫛煙管雛形」。重山「絵本ふぢはかま」。春暁齋「絵本堪忍記」。辰齋画「狂歌驛路鈴」。○三月、国貞「江戸紫訥子頭巾」。○八月、北馬「狂歌隅田川名所図会」。八島一老「一老画譜」。○九月、八島岳亭「鹿島名所図絵」。	素外(90) 蜀山人(75) 春暁齋(57) 千春(83) 訥言(64) 龍麿(60)
1824 文政 7 甲申	永機	○正月、暁鐘成「澱川兩岸勝景図会」。北齋「教訓仮名式目」。○五月、岳亭「狂歌奇人傳」。○十月、北馬「狂歌武蔵野百首」。○十一月、北溪「扶桑名所狂歌集」。 ■ = 草冠 + 恵	■齋(64) 琢眼(78) 如元(60) 歌政(50) 北寿(60s) 薰(56)
1825 文政 8 乙酉		○正月、沼田月齋「絵本今川状」。○二月、北馬「狂歌波の花」。○冬、八島岳亭「狂歌吉原形四季細見」。岡田玉山「伊勢物語図会」(文政六年稿成)。○東南西北雲「復讐奇談五人振袖」(読本)。一楊齋正信「鳥邊山調べのいとみち」。柳園種春「現過思迺柵」。○國重(二代豊國)「女風俗吾妻鑑」(合巻)。○華山/四州真景図巻一落款。	豊國(57) 錦城(61) 徳瓶(68)
1826 文政 9 丙戌	廣重 2 ○ リッソウ	○紅摺の疱瘡絵。○正月、国貞「三芝居役者細見」。岳亭「略画職人盡」。北溪「額面狂歌集」。國直「狂歌百将図傳」。○四月、北溪「狂歌鼎足集」。○六月、暁鐘成「世話千字文絵抄」。北溪、国貞、北馬、國直、辰齋、北齋「狂歌の集」。紹眞(政美の子、赤子と称せり)画「松屋叢考」。○二代豊國「尾上松緑百物語」(合巻)。	千春(94) 鵬齋(75) 波響(63) 章信(62)
1827 文政 10 丁亥		○正月、廣重「洒落口の種本」(表紙画のみ廣重、三十一歳)、「寶船桂帆柱」(合巻)。英齋泉壽「武者絵早学」。岳亭「紫草」。雪旦「江戸名所花暦」。重信「狂歌人物誌」。春暁齋「絵本堪忍記」。○八月、戴斗「萬職図考」。○十一月、戴斗「校本庭訓往来」。	春好(?) 茶山(80) 田騏(44) 一茶(65) 歌國(52) 茶山(80) 南北(60s) トウ イッ 雅嘉(73) 玄沢(71)
1828 文政 11 戊子	芳藤 ○ 由一 芳崖	○正月、英泉「画本錦之囊」「絵本勇見袋」。国貞、貞景、北溪「狂歌四季訓蒙図彙」。國安「四十八手最手鏡」。○三月、國丸、國直「活金剛傳」。國安「相撲金剛傳」(此ころ、相撲道、盛ん)。○四月、北溪「三才花百首」。○五月、眞虎「麿画國風」。○九月、北齋「絵本庭訓往来」初編。○岳亭定岡画作「俊傑神稻水滸伝」初編。○抱一/夏秋草図屏風一下限(没)。○シーボルト事件。	抱一(68) 介石(82) 栄信(54) 元成(75)

1829 文政 12 己丑		○正月、北齋「忠義水滸伝画本」。国貞「三都俳優水滸伝」。○四月、眞虎、歌芳、英泉「神事行燈」三編。北溪「三才月百首」。○五月、北溪「本朝狂歌英雄集」「狂歌桂花集」。○国貞画、馬琴作「近世説美少年録」第一輯。○豊廣、十二月二十一日未明(?)歿す - 馬琴日記。	榮之(74) 眞顔(77) 豊廣(65) 應瑞(64) 南北4(75) 國長(40s) 國丸(25) 定信(72) 治助2(62) 景保(43) 眞澄(76)
1830 天保 1 庚寅 12/10 改元	國輝2○ 芳盛○	○正月、重信「狂歌百千鳥」。國貞「戲場一観頭微鏡」。北溪「狂歌東關驛路鈴」。豊春「拳獨稽古」。○二月、北溪「三才雪百首」。○四月、國直「神事行燈」四編。○六月、岳鼎「猿蟹ものがたり」。○十一月、青洋、虎岳「狂歌百鬼夜興」(京都)。○八月、廣重、始めて東海道を往還する。	雅望(78) =眞顔 嵩月(75) 蘆朝(80s)
1831 天保 2 辛卯	狂齋=暁齋 ○	○この頃、北齋、信州小布施村に到り、門人高井三九郎の家に寓すといふ。○北齋/富嶽三十六景、初め藍摺りにて出版一正本製12篇奥付広告○正月、柳齋重春「役者三國志」。國貞「戲場一観頭微鏡」下帙。北秀「養生一言草」。○三月、國芳、小松原翠溪「魚鑑」。北溪「狂歌春のなごり」。○十月、西川信春「新滑稽發句集」。重信「新撰狂歌集」。○十二月、森川保之「永代節用無盡藏」。	田騏(44) 一九(67) 良寛(74) 萬寶(70)
1832 天保 3 壬 辰	清満	○春幸、二代春章を名乗る。○正月、重信「狂歌花街百首」。○七月、鋏形紹眞「俳家奇人談」。五湖亭國景「新撰七夕狂歌集」。重信「狂歌劇場百首」○八月朔日、廣重、御馬献上の行列に同道し、東海道を旅する。	國安(39) 重信(46) 蓬洲(50s) 山陽(53)
1833 天保 4 癸巳	芳幾○ 田蝶	○廣重、相州江ノ島岩屋(三枚続き)を描く。○英泉著「無名翁隨筆」(一名「続浮世繪類考」。○正月、北齋「唐詩選画本」五言律、五言排律の部。吳北溪、國芳「あづまあそび」。國貞「俳優畸人傳」。竹内眉山「戲劇百人一首」。○七月、眞虎「百人一首一夕話」。○雪旦「江戸名所図会」(武江年表、天保四年の條)。○竹田/松巒(しょうらん)古寺図一自賛。	眞虎(42) 木米(67) 可楽(57) 慈悲成(72)
1834 天保 5 甲午		○正月、廣重「東海道五十三次」画帖仕立出版(竹内保永堂版、横絵揃物)一四方瀧水の序文。○北齋「富嶽百景」初編(前北齋爲一改画狂人記と署名)○正月、北齋「絵本忠経」「北齋漫画」十二編。○六月、岡田玉山「絵本名誉傳」。○八月、國芳「狂歌覓玉集」。○九月、菱川清春「早見献立帳」(京都)。○岳亭定岡、黄園五岳と改名(?)「天保山勝景一覽」(帖仕立て)	清澄(49) 楠亭(60) 榛齋(66)
1835 天保 6 乙未	國周○ 雅邦	○北齋、相州浦賀に潜居し、三浦屋八右衛門と称す○正月、北齋(実は北溪)「五十三次北齋道中画譜」(天保元年刊、北溪「狂歌東關驛路鈴」の改題本)。國直、國貞「俳風狂句百人集」。北齋、國貞「俳優三十六花撰」。○三月、歌川貞廣「銀鷄一睡南柯廼夢」。北齋「富嶽百景」二編。○五月、暁鐘成「天保山名所図会」(大坂)。○六月、菱川清春「銀河草紙」(京都)。戴斗「萬職図考」二、三編。○十二月、北齋「画本千字文」。	豊國2(59) 竹田(59) 掖齋(61)
1836 天保 7 丙申	鐵齋	○北齋、相州浦賀に潜居する。○日尾山著「品生談」。○正月、北齋「絵本魁」「諸職絵本新鄙形」。雪旦「江戸名所図会」四巻より七巻。菱川清春「一休諸國物語図会」(京都)。○四月、國貞、國直、北馬、國芳、重信、北溪、武清「とふの菅薦」。○五月、廣重「百人一首鐘聲抄」。○八月、北齋「絵本武蔵鑑」。	曲山人
1837 天保 8 丁酉		○芳虎「道外武者御代の若餅」(一枚絵)にて手鎖五十日の処分。○正月、雪旦「江戸名所花暦」。北齋、重信、北雅「日光山志」。○華山/鷹見泉石像一落款。 ■=崖-山	詩仏(71) 華山(54) =三ツ 仙■(88) 在中(88) 龜祐(74) 忠以(61) 平八郎(46) 蟹子丸(66)
1838 天保 9 戊戌	周延○ 團十郎9	○正月、雪旦「東都歳時記」。○九月、西村中和、小野廣隆「紀伊國名所図会」。	應震(49) 岸駒(90) 平々山人(66) 蘭山(77) 外

1839 天保 10 己亥	芳年○	○正月、武清「絵本勲功草」。八島五岳「貞経」。○三月、重信「名数狂歌集」。○廣重「相州江ノ島弁財天開帳・・・」(三枚続)。	東洋 (87)
1840 天保 11 庚子	楓湖	○國芳「寫生百面叢」。北齋「和漢陰陽傳」。廣重「興歌六々集」。○八月、北馬「狂歌続飲娛集」。○法齋、房総の客舎にて支那一覧図を描く。○十二月、國芳「山海愛度図会」(錦絵)。○是真ノ鬼女図一銘。	文晁 (78) 杏所 (55) 理齋 (79) 應震 (50) 高尚 (77)
1841 天保 1 2 辛丑	芳瀧	○四月、廣重、甲州に行く。○正月、八島五岳「俳諧画譜」。春泉「絵本百物語」。北齋、北溪「花の十文」。○華山ノ千山萬水図一落款。	華山 (49) 弘賢 (84) 述齋 (64) 静山 (82) 徹山 (67) 鯉丈 (65) 定丸 (41)
1842 天保 1 3 壬寅	廣重 3 ○ 至一	○六月、國貞画、種彦作「修紫田舎源氏」。○六月四日、出版取締令。○十一月晦日、名主検定制を実施。○春水作の人情本、國直、國貞画の春画本、絶版処分となる。○英泉、梅亭華溪画「■齋鹿画」。	種彦(60) 牧之 (42)
1843 天保 1 4 癸卯	永濯○	○國芳「源頼光公館土蜘蛛妖怪図」(三枚続き) 絶版の命を受けしといふ。○七月、貞秀も同様の図にて罰せらる。○正月、「北齋画苑」。○七月、半山「絵本狂歌笑茸」。○十月、國貞「相撲取組図画」。國安「四十八手最手鏡」(再版)。	雪旦(68) 一珪(85) 山陽(53) 靄崖(48) 香樹 (76) 篤胤 (68) 春水 (54) 菱湖 (67) 景文 (65) 了阿 (72)
1844 弘化 1 甲辰	梅嶺	○三月、廣重、上総鹿野山に登る。○十月より、巢鴨染井、菊の造り物を始める。○正月、國芳「滑稽絵姿合」。半山「阿弥陀経和訓図会」。○種秀編、貞秀画「和漢英雄百人一首」。これより、小本の百人一首、多く出版される、多くは川柳編。	北馬(74) 護物(73) 三馬(73) 景文 (65) 南嶺 (70) 在明 (67) 慊堂 (74)
1845 弘化 2 乙巳	景年 如電	○國貞、薙髪して肖造と称す。○九月、江戸麻布にて唐黍の実、変じて 冠の如き形となる。國芳、錦絵にて出版。○正月、國直、英泉「名譽三十六佳撰」。○三月、雪堤「調布玉川絵図」。○椿山ノ高久靄崖一稿本。	豊彦 (73) 長根 (78)
1846 弘化 3 丙午		○白山人北爲画「菊のすがたみ」(染井の菊が題材。○正月、芳虎「絵本大将揃」。貞秀「歳時記図会」。半山「御迎船人形図会」。○四月、國芳「一勇画譜」。	半江 (65) 春琴 (68) 養信 (51) 春琴 (68) 融思 (79) 由豆流 (58) 榕庵 (49)
1847 弘化 4 丁未	清親○ 國利○ 玉英	○善光寺如来開帳。○三月二十四日、大地震。○総絵、流行る。○正月、應爲「女重宝記」。磯野文齋「長崎土産」。國盛「浮世画手本」。静齋英一「地口絵手本」。○四画す、英泉「神事行燈」五編。○五月、小田切春江「名區小景」。○十二月、國英「諸国道中たび鏡」。	蘆州 (81) 与清 (65)

1848 嘉永 1 戊申		○正月、北齋「絵本彩色通」二冊。○七月、廣重「艸筆画譜」。○十一月、戴斗「花鳥画傳」。	英泉(59) 馬琴(82) 泉晁(37))
1849 嘉永 2 己酉	廣重 4 松年	○正月、「北齋漫画」十三、十四遍。○五月、廣重「東海道名所図絵」。○九月、戴斗「花鳥画傳」二遍。	北齋(90) 五山(86)) 守部(69))

1850 嘉永 3 庚戌		○正月、北齋「絵本和漢誉」。英泉、廣重「名所發句集」。戴斗「萬職図考」。○七月、廣重「草筆画譜」、「絵本江戸土産」初編～四編。○八月、浮世絵師、國芳、芳藤、芳虎、芳艶、貞秀、役人の糺問を受ける。	北溪(71) 長英(47)
1851 嘉永 4 辛亥	省亭セ行イ	○正月、廣重「東海道風景図会」、「略画立齋百図」初編、「奇特百歌僊」、「双筆画譜」四編。○八月、爲齋「興歌手向花」。	洞白(34) 椿年(60)
1852 嘉永 5 壬子	蕉窓 米遷	○正月、爲齋、國貞、國芳、貞秀、國輝、芳虎など「畸人百人一首」。○國芳「橋本屋白糸(錦絵)」(二代目坂東秀佳)○八月、三代豊國(初代國貞)「俳優見立五十三次」。○廣重、上総房州地方に再遊せり。○二代国政、二代國貞と称す。	玉川(59) 一鳳(52) 南北5(57)
1853 嘉永 6 癸丑		○正月、爲齋、國貞、二代國貞、國芳、貞秀、芳虎「贈答百人一首」。清水芳玉女父子「本朝武芸百人一首」。○三月、山形素眞「狂歌調子笛」。是眞「狂歌本朝二十四孝」。松川半山、浦川公左、菊川竹溪、暁鐘成など「西國三十三ヶ所名所図会」。○六月、國芳、柳橋の河内屋にて、十畳ほどの九紋龍を描く。○七月、國芳「浮世又平名画奇特」(錦絵)にて過料。○國芳「難病療治」(錦絵)、発売禁止■おなる。○ペリー、来航。	竹洞(78)
1854 安政 1 甲寅 12・5 改元		○此年より、寫眞術、行はれしといふ。○正月、英泉「英雄画史」。○五月、雪堤、武一、山崎武陵、板橋貫雄「成田名所図会」。○八月、芳盛「海外人物輯」。廣重「扶桑蓬萊百首狂歌集」。○日米和親条約。	國直(62) 椿山(54) 團十郎8(32) 彦磨呂(87)
1855 安政 2 乙卯		○十月二日、江戸大地震。○正月、國輝、玄魚「俳人百家撰」。○三月、二代北齋、素眞、貞秀、廣重「利根川図志」。○四月、半山「浪華の賑ひ」。廣重、芳虎「茶器財歌集」。貞秀、重探齋「北蝦夷図説」。○芳晴「俳諧歌一人一首」。	一峨(60) 坦庵(55) 道八2(73)
1856 安政 3 丙辰	忠	○正月、國芳「國芳雜画集」。○二月、重信(二代「柳川画譜」。○三月、廣重「義経一代記図会」○芳晴、鶯齋「安政見聞録」三冊。(地震は前年)	武清(81) 雪麿(60) 梅逸(74) 信節(74) 尊徳(70) 淡窓(75) 美成(67) 黙老(83) 二三治(73)
1857 安政 4 丁巳	年信	○阿榮(北齋の娘)、戸塚にて行末知れずといふ。正月、廣重「狂歌ももちどり」。國芳「國芳雜画集」二編。○十二月、芳盛「絵本早学」。○芳豊、浮世喜樂齋■「近世美談大川仁政録」。○川上冬崖、蕃書調所絵図調出役一蕃書調所起源考。	戊申(72)
1858 安政 5 戊午		○正月、「素眞画譜」○四月、孟齋好寅(猛齋芳虎「錦花集」。○七月、國芳、廣重、芳晴、芳綱「淺草名所一覽」。○九月、爲齋画、金水著「日蓮上人一代図会」(明治二十一年、「爲」を「北」に填板せしものあり)。	廣重(62) 米庵(80) 其一(63) 泉石(74) 種員(52) 星巖(70) 京山(90) 東里山人(69)
1859 安政 6 己未	月耕	○重宣(歳三十四)、二代廣重と名乗る。○正月、廣重「富士見百図」。○三月、雪花園實(貞?)宣画「名筆画譜」。○梅川東挙「本朝錦繡談図会」(読本)。■=草冠+恵	一■(65) 一齋(88) 翁満(65) 團十郎7(69)

1860 万延 1 庚申 閏 3・1 改元	華邨 ビゴ一	○四月、暁齋「狂齋画譜」。貞秀「横濱土産」。半山「三國高僧図会」。	鐘成(68) 芳房(24) 千春(81) 慶賀(75) 文京(76)
1861 文久 1 辛酉 2・28 改元	桂舟	○正月、二代廣重「絵本江戸土産」八編。芳虎「萬國人物図会」。○四月、半山「宇治川兩岸一覽」。爲齋「花取り山水図式」二編。○西川祐春「南北太平記図会」三編(京都)。○ワーグマン/東禪寺浪士乱入図。	國芳(65) 豊芥子(62)
1862 文久 2 壬戌	年英 芳文	○正月、貞秀「横濱開港見聞誌」二冊。○六月、二代廣重「廣重画譜」。○九月、松川半山、梅川東居「再撰花洛名勝図会」八冊。○高橋由一、洋書調所画学局に入局。	海僊(78) 金水(68)
1863 文久 3 癸亥	芳宗 2	○正月、二代廣重「諸職画通」二冊。半山「澱川兩岸一覽」四冊。芳幾「粹興奇人傳」(芳幾、この年、二十一歳)	海屋(86) 一信(49) 阮甫(65 j) 洪庵(54)
1864 元治 1 甲子 3・1 改元	永洗 安治 鞆音 棲鳳	○正月、立祥「絵本江戸土産」九、十編。貞秀「萬象寫真図譜」。○七月、清水爲齋「爲齋画式」。○清水芳玉女「八犬士傳画面狂歌集」。○五姓田芳柳、横浜にて和洋折衷の肖像画を製作一洋風美術家小伝・初代五姓田芳柳翁小伝。	國貞(79) 爲恭(42) 象山(69) 歌政 2(78)
1865 慶應 1 乙丑 4・18 改元		○六月、貞秀「絵本孫子童観抄」。○此頃より絵合流行。芳幾、是真、京水、幾丸、鳥居清満(六代か)、鄰春、玄魚など「花吹雪」二冊。	岸岱(84) 鶴寿(63) 拙堂(69)
1866 慶應 2 丙寅	廣業 年方	○四月、立祥「江戸方角名所杖」二冊。○五月、芳年「一魁漫画」。○十二月、松川半山、西川祐春「京みやげ」東山の部。○高橋由一、ワーグマンに師事一私学(天絵学舎)開業願。	春村(68) 芳艶(45)
1867 慶應 3 丁卯		○正月、暁齋「能画図式」。○二月、芳幾、幾丸、其の他「端月集」(絵合)。○四月、綾岡、是真「俳諧歌廣幡集」。○五月、玉蘭齋貞秀「英名百雄傳」二編。○十月、爲齋「山水花鳥早引漫画」。○大政奉還。	英山(81) 清行(32) 玄々堂(82)
1868 明治 1 戊辰	敬中 大観	○明治維新	清峰(81)
1869 明治 2 己巳	耕漁 古洞		廣重 2(44) =立祥

1870 明治 3 庚午	半古	○平民に苗字を許可	
1871 明治 4 辛未	弘明	○松亭（弘明） - 1871 - 98 -	
1872 明治 5 壬申	延一	○戸籍法発布（壬申戸籍）	
1873 明治 6 癸酉	春汀	○徴兵令	貞秀(67)
1874 明治 7 甲戌	弘光	○警視庁設置、台湾出兵	國輝 2(45)
1875 明治 8 乙亥	寅治	○千島樺太交換条約調印	
1876 明治 9 丙子	よしだ	○廃刀令	
1877 明治 10 丁丑	雅人	○西南の役	鴻山(81) 文麟(70) 保孝(82)
1878 明治 11 戊寅	清方	○大久保利通、暗殺	容齋(91) 磐溪(78)
1879 明治 12 己卯		○沖縄県設置	貞信(71)

1880 明治1 3 庚辰	五葉 帰一 守一 恒富	○横浜正金銀行	玄魚(64) 國貞2(58) 芳宗(64)
1881 明治1 4 辛巳	映丘 新太郎 恒友	○日本鉄道会社設立	
1882 明治1 5 壬午	柏亭 一磨 鼎 生馬 兵衛門	○日本銀行創立	半山(63) 雪堤(70) 田蝶(51)
1883 明治1 6 癸未	輝方 巴水 古径 孤雁 薫造 三造	○官報発布	鴻山(78)
1884 明治1 7 甲申	夢二 三郎	○地租条令改正、日本鉄道開業(上野～高崎)	芳盛(55)
1885 明治1 8 乙酉	耕花 龍 子 鉄五郎	○内閣制度	
1886 明治1 9 丙戌	春仙 耕花 至 千甕 ブブノア 憲吉	○国際赤十字条約加入	年信(30)
1887 明治2 0 丁亥	雪岱 麦僊 鶴三 リーチ 楢重	○鹿鳴館で舞踏会	芳藤(60)
1888 明治2 1 戊子	蕉園 華岳 千帆 曾太郎 龍三郎 麥風	○皇居を宮城と改称	芳崖(61)
1889 明治2 2 己丑	清カヤカ 卯之助 晃甫	○大日本定國憲法発令	曉齋(59) 探景(26) =安治

1890 明治 23 庚寅	廣重 4 収 吾朗 虎雄 晁湖	○蕉窓 (雁) 帝国ホテル。第一回帝国議会。民事訴訟法、商法公布。	永濯(48)
1891 明治 24 辛卯	主計 潔ハカヲ 孝四郎 劉生 印象 静雄 義郎	○度量衡法公布、大津事件、足尾鉍毒問題。	是真(85) 永惠(78) 枕山(74)
1892 明治 25 壬辰	恭吉 紀元 成園 由平	○永洗 ○鉄道敷設法	芳年(54)
1893 明治 26 癸巳	一政 癸巳男 莊八 正治 龍生 蓬春	○碓氷峠アプト式鉄道	
1894 明治 27 甲午	武雄 ^{ウチウラ} 觀方 孝一 武雄 ^{ウチウラ} 英 孝則 民次	○日清戦争 94 - 95	廣重3(53)関 齋(81) 由一(67)
1895 明治 28 乙未	運一 澄生 愛造 伊之助 富弥 亨 翠山 信太郎 青藏 通勢	○日清講和条約(下関条約)	梅嶺(52)
1896 明治 29 丙申	源 索一 ひとし	○民法公布、白馬会(黒田清輝)	
1897 明治 30 丁酉	滋 庄一郎 進 青児 安規	○貨幣法(金本位確立)、万国郵便条約。	
1898 明治 31 戊戌	深水 紫浪 孝吉 正実 義利 青圃 虹児 鹿之助 三郎 秀峰	○日本美術院設立	草雲(84)

1899 明治 32 己亥	伊作 興家 辨次		國利(53) 芳瀧(59)
1900 明治 33 庚子	言人 三三男 憲之	○治安警察法公布。	國周(66)
1901 明治 34 辛丑	專太郎 潤吉 善策	○八幡製鉄操業開始。	
1902 明治 35 壬寅	梅太郎 若禮 しげを 知雄 富吉郎 英雄	○八甲田山遭難事件	
1903 明治 36 癸卯	志功 好太郎 良平	○小学校国定教科書制度	團十郎9 (66)
1904 明治 37 甲辰	喜之助 醇一郎 藤四郎 得之 政雄 俊彦	○日露戦争 '04 - 05	芳幾(72) 永機 (82)
1905 明治 38 乙巳	三郎 義信	○日露講和調停。日本初のメーデー。	永洗(42) 至一 (64)
1906 明治 39 丙午	喜平		米遷(55)
1907 明治 40 丁未	薫 儀八郎 清 佐吉 立美 六郎 芳雄	○足尾銅山スト。	忠(52)
1908 明治 41 戊申	宇一 織藏 和 魁夷 貞雄		雅邦(74) 年方(43)
1909 明治 42 己酉	忠重 義夫 誠 工		

1910 明治 43 庚戌	一雄 哲平 晨明 多賀	○大逆事件	
1911 明治 44 辛亥	遠志 一 材 ^跡	○大逆事件判決（24名死刑）	
1912 大正 1 壬子	桂子 比呂志 六洲	○中華民國（孫文）	周延(75)
1913 大正 2 癸丑	襄一 農夫也		
1914 大正 3 甲寅	準一郎 圭一 正博	○第一次世界大戦。日本軍、山東半島へ上陸。	蓮杖(92)
1915 大正 4 乙卯		○無線電信法公布。	清親(69) 恭吉(25)
1916 大正 5 丙辰	薫	○海軍航空隊令。	
1917 大正 6 丁巳	知明	○ロシア革命	蕉園(30) 半古(48)
1918 大正 7 戊午	文雄	○軍需工業動員法公布。	芳文(57) 松年(70) 省亭(68)
1919 大正 8 己未		○関東軍司令部条令公布。	華邨(60) 廣業(54)

1920 大正 9 庚申	聖 哲郎	○国際連盟加入。	月耕(62)
1921 大正 10 辛酉	二郎		五葉(42) 輝方(39)
1922 大正 11 壬戌			
1923 大正 12 癸亥	良之助	○関東大震災。	楓湖(84)
1924 大正 13 甲子			景年(80) 鐵齋(89)
1925 大正 14 乙丑		○治安維持法、普通選挙法。	廣重4(77) 年英(64)
1926 大正 15 丙寅 昭和 1		○労働争議調停法。	
1927 昭和 2 丁卯		○金融恐慌。南京事件。	耕漁(59) 孤雁(46) 鉄五郎(48)) ビゴ(68))
1928 昭和 3 戊辰		○普通選挙実施。	
1929 昭和 4 己巳		○世界恐慌。	劉生(39)

1930 昭和 5 庚午		○世界恐慌、日本に波及。	帰一 (51)
1931 昭和 6 辛未		○満州事変	鞆音 (48) 檜重 (45) 如電 (87)
1932 昭和 7 壬申		○5・15事件。上海事変。	
1933 昭和 8 癸酉		○国際連盟脱退。	恒友 (53)
1934 昭和 9 甲戌			夢二(51) 好太郎 (3 2)
1935 昭和 10 乙亥			義夫 (27)
1936 昭和 11 丙子	青史	○2・26事件 (東京に戒厳令)。	麦僊(50)
1937 昭和 12 丁丑		○日華事変	
1938 昭和 13 戊寅		○国家総動員令	映丘(58)
1939 昭和 14 己卯		○日本軍、海南島へ上陸。ノモンハン事件。	華岳(52)

1940 昭和 15 庚辰		○紀元2600年。大政翼賛会発足。	雪岱(54)
1941 昭和 16 辛巳		○太平洋戦争'41 - 45。日ソ中立条約。	芳宗 2 (79)
1942 昭和 17 壬午		○マニラ、シンガポール、ジャワ占領。ミッドウエー海戦。アッツ島、日本守備隊玉砕。	耕花(57) =トヨカ 栖鳳(79)
1943 昭和 18 癸未		○ガダルカナル撤退。	桂舟(83) 静雄 (53)
1944 昭和 19 甲申		○大都市、疎開命令。サイパン島玉砕。レイテ沖海戦。東京空襲。	延一(73) 秀峰 (47) 亨 (50)
1945 昭和 20 乙酉		○8 / 5 敗戦	弘明 (75) 古洞 (77)
1946 昭和 21 丙戌		○天皇、人間宣言。GHQ、公職追放令。	鼎(65) 索一 (49) 虎雄 (57) 安規 (50)
1947 昭和 22 丁亥		○ゼネスト中止指令。最高裁判所発足。	恒富 (68) 兵衛門 (66)
1948 昭和 23 戊子		○極東国際軍事裁判。	清(60) コハヤカ
1949 昭和 24 己丑		○単一為替レート設定。	

1950 昭和 25 庚寅		○公職選挙法施行。レッドパージ開始。	よしだ (75) 薫造 (68) 通勢 (56)
1951 昭和 26 辛卯		○日米安全保障条約。ユネスコ加盟。	晃甫 (63)
1952 昭和 27 壬辰		○血のメーデー事件。	
1953 昭和 28 癸巳		○日米友好通商航海条約調印。	雅人 (77)
1954 昭和 29 甲午		○造船疑獄。	癸巳男 (62)
1955 昭和 30 乙未		○ガット加入。	孝四郎(65) 曾太郎(68)
1956 昭和 31 丙申		○国際連合加盟。気象庁発足。	一磨(75) 三郎 (59) ひとし (61) 正秀 (57)
1957 昭和 32 丁酉		○在日米地上軍撤退開始。	巴水(75) 古径(75) 孤雁 (75)
1958 昭和 33 戊戌		○なべ底不況。	柏亭(77) 大観(91) 荘八 (66)
1959 昭和 34 己亥			

1960 昭和 35 庚子	○日米新安保条約。	春仙(75) 若禮(59) 千帆(73)
1961 昭和 36 辛丑	○小児マヒ流行。	
1962 昭和 37 壬寅	○ガリオア・エロア返済協定調印。	翠山 (57)
1963 昭和 38 癸卯	○国電鶴見事故。	憲吉 (78)
1964 昭和 39 甲辰	○東海道新幹線。	寅治(90) 愛造 (70) 弘光 (91)
1965 昭和 40 乙巳	○アメリカ、ヴェトナム北爆開始。	薫 (50) 英 (72)
1966 昭和 41 丙午	○BOAC機、富士山上空で空中分解。	廣重5(78) 龍子(82) 新太郎 (86)
1967 昭和 42 丁未		三造 (85) 晁湖 (78) 廣重 5 (78)
1968 昭和 43 戊申	○郵便番号制度。	至 (83) 薫 (62) 龍生 (76)
1969 昭和 44 己酉	○国際反戦デー。	卯之助 (86) 吾朗 (80) 三郎 (86) 正治 (77)

1970 昭和 45 庚戌	○核兵器拡散防止条約。	喜之助 (67) 成園 (79)
1971 昭和 46 辛亥	○沖縄返還協定。	武雄 (78) ニシダ 蓬春 (79) 千甕 (86)
1972 昭和 47 壬子	○連合赤軍浅間山荘事件。	清方(94) 深水(75) 澄生(78) 得之 (68) 紀元 (81)
1973 昭和 48 癸丑	○円、変動相場制。	鶴三(87) 滋 (77)
1974 昭和 49 甲寅	○田中金脈問題化。田中首相、退陣。	専太郎(74) 生馬 (93) 三郎 (70)
1975 昭和 50 乙卯	○山陽新幹線、岡山～博多。	志功(73) 印象 (85) 政雄 (76)
1976 昭和 51 丙辰	○ロッキード事件問題化。	言人(77) 哲郎 (57) 源 (81) 麥風 (89)
1977 昭和 52 丁巳	○日航機ハイジャック事件。	伊之助 (83) 守一 (98)
1978 昭和 53 戊午	○日中平和友好条約。	鹿之助 (81) 青児 (82) 義郎 (89)
1979 昭和 54 己未	○イラン革命による対日原油削減。	観方 (86) 襄一 (67) 正実 (82) リーチ (93))

1980 昭和 55 庚申		○京都冷泉（れいぜい）家古文書	潔(90) 知雄（79） 六洲（69）
1981 昭和 56 辛酉			儀八郎（75） 青圃（84）
1982 昭和 57 壬戌		○日航機羽田沖に墜落	しげを（81）
1983 昭和 58 癸亥		○ロッキード事件（田中角栄、有罪）	武雄(90) 進（87） ブノワ（98）
1984 昭和 59 甲子			主計(94) 貞雄（78）
1985 昭和 60 乙丑		○日航機御巣鷹山（おすたかやま）に墜落	
1986 昭和 61 丙寅			龍三郎(99)
1987 昭和 62 丁卯			
1988 昭和 63 戊辰		○水俣病（みなまた）訴訟でチッソ有罪	準一郎(75) 良平（85）
1989 昭和 64 己巳 平成 1		○昭和天皇没、吉野ヶ里遺跡	信太郎（95）

1990 平成 2 庚午		○長崎市長、「天皇に戦争責任ある」との発言で右翼に撃たれる。	
1991 平成 3 辛未		○湾岸支援 ■見掛け倒しのバブル（景気浮揚）が弾けて国内の消費、企業の設備投資が落ちる。■超低金利政策により金融機関の不良債権のツケを取り戻そうとするが、却って預金者、消費者の疑惑を招き、個人消費が極端に低迷する。	紫浪（94）
1992 平成 4 壬申		○東京佐川問題、日本新党結成	
1993 平成 5 癸酉		○釧路沖地震、連立政権誕生（細川内閣）。○国内のコスト高、アジア諸国のコスト安の製品輸入で消費低迷。○企業の雇用調整（リストラ）により中間管理者ほか、失業者増える。○安い輸入品により国内の高い商品の価格破壊が起こる。○車など高い製品は全く売れなくなる。	
1994 平成 6 甲戌		○政治改革法案成立。○戦後最悪の景気低迷により新卒者の未就職増える。○価格破壊、企業倒産の増大、リストラなどの不安で、消費者は高い製品を全く買わなくなる。	
1995 平成 7 乙亥		○1/17、阪神大震災で5000人余死亡。○3/20、サリン毒ガス事件（東京地下鉄）。	
1996 平成 8 丙子		○10/20、小選挙区・比例代表並立制という矛盾する選挙制度により、選挙民の実質的な得票数が、議員数に反映されない結果となった。小選挙区得票数（百分率）は自民38、新進28、共産13、民主11、社民2、さきがけ1、無所属4、その他3%で、連立の自民+社民+さきがけ=41%、新進+民主=39%、+共産で、現連立に反対した得票率は52%に達している。この比率で議員数が配分されなければ、選挙民の民意を反映したことにはならない。また国民審査による最高裁判事の投票も、白紙の無記名を信任と見なし、基本的な選択制度そのものが、審判を仰ぐ立場の判事に都合よく出来ており、この選択制度そのものが噴飯ものである。選択はチェックボックス方式【 <input type="checkbox"/> 信任 <input type="checkbox"/> 不信任】とし、どちらかのボックスを選択する方式でなければならない。	
1997 丁丑			
1998 戊寅			
1999 己卯			
2000 庚辰			
2001 辛巳			
2002 壬午			
2003 癸未			
2004 甲申			
2005 乙酉			
2006 丙戌			
2007 丁亥			
2008 戊子			
2009 己丑			

- 寛永年間、浮世絵師・山本理兵衛
- 尚信、慶安3年4月7日、44歳没（一説）
- 承應年間、花田内匠。
- 萬治年間 お伽草紙、仮名草紙、浄瑠璃本。「ぶんしやうのさうし」「よこぶえ たきぐち のさうし」「志田ものがたり」「富士の人穴さうし」「あつもり」「平の維茂もみぢ狩」「教訓書、随筆「女訓抄」「見ぬ世の友」。
- 延寶年間 ○師宣、師重の一枚絵、流行する。丹録など手彩色。○浮世絵師、井上勘兵衛。
立圃。名人忌辰録に九月三十日行年七十一歳没すとある。寛文九年説が有力。
- 天和年間 杉村治信「古今男」
- 貞享年間 絵師、河合翰雪。
- 元禄年間 ○吉原の遊女、高橋（江戸町一丁目、巴屋源右衛門抱え）白無垢にて揚げ屋入り。八朔に白無垢を着る習慣になるという。
- 寶永年間 ○赤猫齋全暇、鳥羽絵を描く（京都）○政信画「きほひさくら」（馬琴「燕石雑誌」）
- 正徳年間 ○古山師重没す（俗称太郎兵衛、門人に師政）○植木師伊兵衛、花木草花市を染井にて開催○道具持ち仲右衛門（築地小笠原家）、管簾を製す。
- 享保年間 ○この頃、和泉屋権四郎、紅彩色の絵を売る。紅絵の初め。
- 享保年間 ○浄瑠璃語り、宮古路豊後掾、享保の末、京都より江戸に下る。この時の豊後掾の風俗が江戸にて流行る。○大盡舞、流行る。
- 元文年間 ○市松（石畳の染）模様、流行る。歌舞妓役者、佐野川市松の好み。○舞子の花かんざし、はやり出す。
- 延享元年 ○黒本、画工は奥村利房、鳥居清倍、西村重信。多くは署名なし。稿挿絵鱗形屋版「十団子の始まり」「牛御前ものがたり」「敵討亀山通」「敵討巖流島」。奥村版「敵討御法の庭」。山本（九左衛門）版「福人よめ争い」「相州矢立杉」「執着一念物語」「新義経記」「南朝太平記」。岩戸屋「丹波てて打栗」。
- 延享年間 ○浮繪、流行する。○谷中、笠森稻荷参詣が始まる。○志道軒の講釈、流行る。

- 寛延年間 ○この頃より、開帳場に神仏によらず、幟を立てる事始まる。
- 江戸の方言にて、山猫といへる傀儡師、一月に七八度づつ同じ所を廻りしが、この時代より絶えたりといふ。○宗十郎頭巾はやり出す。

- 寶暦一年 西川祐信 祐信は京都の画家にして西川流の祖なり。もと狩野・土佐等の画を学びたるも、江戸の菱川・鳥居等の画を見て其の影響を受け純浮世絵画家となれるが如し。俗称は右京・祐助等といひ、文華堂・自得齋等の号あり。寶暦四年三十一歳にして初めて浮世草紙「新堪忍記」に画き、超えて享保八年四十六歳のとき「百人女郎品定」に画き、大いに名声を高め、又超えて享保十五年よりは死に至るの前年七十三歳まで毎年四、五

部宛ての絵本を画かざる無く、其刊年不明のもの及び署名せざるもの種々の書籍に亘りて存在する者百十七部にして、其の画の巧拙は暫く措き、其の努力に至りては実に偉なりといふべし。後年江戸に葛飾法歳あり、一は婉柔を極め、一は勁拔を尽くせり。唯だ其の孜々として研鑽倦むなきの点に至りては東と西と古と今と一對の好画伯たりといふべし。

○寶曆二年 ○十一月十三日、宮川長春歿す。長春は尾張國宮川村の産にして後江戸に出て本所菊川町に住せり。長春おもふところありしか、終世版画を画かず、余（漆山天童）は懷月堂の版画さへ見たるに、長春は絶えて見たる事なし。余の浅見の然らしむるところなるか、記して以て世の識者に問はんとす。門人には長龜あり。春水あり。斯界の偉人勝川春章は実に、春水の門人なり。

○寶曆三年 ○羽川珍重、没す。蓋し、翌寶曆四年説眞なるが如し。○六月二十一日、俳人立羽不角没す。年九十二歳。○十一月二十四日、俳人自在庵祇徳没す。

○寶曆十三年 ○十二月二日、鳥居清倍没す。行年五十八歳。(清倍は清信の弟にして通称庄二郎といへ。漆絵、丹絵、紅絵等の作あり。二代の清倍もある如く、或いはこの寶曆十三年に没したる清倍こそ二代にあらずやと想はるう疑あり。世の識者の教えと後の考えとを待つ)。○六月十九日、大岡春卜没す。行年八十四歳。蓋し、浮世絵師にはあらず。

○寶曆年間 ○武江年表に記していはく。寶曆中、西村重長が「絵本江戸みやげ」(寶曆三年出版) 囃中、両国涼みの囃に水茶屋葭簀の屋根なし。見世毎に行灯を於いて御涼所と記せり。吉原五十軒茶屋に編笠、釣るしてあり。歩行の女子帽子を冠ると。又いはく、婦女の衣類丁子茶の色を好み、花簪はやる。朱塗の櫛(旭の櫛といふ)象牙の笄も行はれたりと。

○明和元年 ○此年、奥村政信没す。行年七十九歳(或いはいふ明和五年二月十一日同じく七十九歳にて没せりと。) 政信は原来書肆にして通油町奥村屋源六即ちこれなり。菱川師宣、鳥居清信等の絵を私淑して学びたるものの如く、又文字もありて著書あり。挿絵も自ら成し、其の著書は先に散見せるが如し。通称源六の外、源八ともいひ、芳月堂、丹鳥齋、文角、梅翁、親妙等の号あり。其の才早熟にして三十歳前より盛んに製作し、晩年に至りて却って其の作稀なり。

○明和三年 ○此年、亀戸龍眼寺、庭中池邊に数株の萩を栽う。是より毎年、盛の頃、貴賤遊覧の爲め群衆す。浮世絵の郊外散策の囃に萩寺の景などあるは、これより生まれり。

○此年、霊岸島埋立地成る。俗に蒟蒻島といふ。所謂、岡場所の一にして、洒落本を蒟蒻本といへるは、この蒟蒻島を描きはじめてたるよりの期限なりともいふ説あり。

○明和六年 ○此年「明和伎鑑」出版。画は俳優の鬘のみなり。此書、俳優の事を記するに武鑑を擬し廉（かど）を以て絶版せられ、作者は遠島の刑に処せられたりといふ。○此年四月八日より、湯島境内にて和泉石津大社笑姿（えみす）開帳。この時、巫女二人、名をおなみ、おはつといへるみめよき女を扱みて舞はす。鈴木春信これを錦絵に画けり。

○明和七年 ○鈴木春信歿す。行年五十三齋。或いはいふ四十六歳。或いはいふ四十七歳と。（春信は通称治兵衛、号は長栄軒、両国米沢町に住せり。西村重長に学べりといふも重長一人にはあらざるべく鳥居派や宮川派や、その他當時の画工の春信の先輩の鳥山石燕・石川豊信等も研鑽の料とせられたるなるべし。而して所謂、錦絵なるものは実は春信に抛り手創始せられたるものの如し。門人には磯田湖龍齋の傑出せるあり。）

○明和年間 ○谷中笠森稻荷境内の茶屋鍵屋おせん、浅草奥山銀杏木の下楊枝見世柳屋のおふぢ、此の二人當時美人の聞こえありて、鈴木春信専ら錦絵に画く。○此頃浮世絵師、小松屋百亀（麹町飯田町の薬種屋にて、西川祐信を私淑し、専ら春画を画けり。通称三右衛門。寛政四根ん、八十餘歳にて歿せりといふ）、柳文朝等盛んに行なはる。

○安永三年 ○鳥山石燕「彩画鳥山彦」。フキボカシなりといふが、疑はし。明和四年版の大坂の画工北尾雪坑齋「彩色画選」はフキボカシの彩色なり。それ等とは大いに趣きを異にし、普通の彩色摺なり。

○天明四年 ○此年春、古阿三蝶（世人古来誤りて古阿を古河と記す）・・・（青本）。

○天明五年 ○三月十八日、福王雪岑、歿す。行年八十五歳。（雪岑は御能役者、福王茂右衛門なり。白鳳軒と号し、一蝶風の画を学び、享保の頃より能の図を画くことを専らとせり。）○四月三日、鳥居清満、歿す。行年五十二歳。（清満は鳥居家の三代を継ぎ、実に清倍の次男なり。今の所謂、三色版を発明し、我版画界に特に功績ありし人なり。）○五月二十五日、石川豊信、没す。行年七十五歳。（豊信は通称、七兵衛、馬喰町の旅籠屋糠屋の主人にして絵画を好み、西村重長に就いて浮世絵を学び、明篠堂秀葩の別号あり。多く紅絵を画けり。）

○天明六年 ○十二月四日、月岡雪鼎、歿す。行年七十七歳（雪鼎は近江の人。京都及び大坂に住せり。名は昌信、通称丹下、露仁齋・信天翁等の号あり。初め高田敬輔に学び、後一家を成し、即ち月岡流の一派を立てたり。美人を画くに最も柔媚の態を能くし、春画に長ぜり。）

○天明七年 ○七月一日、勝川春常、歿す。（春章の門人にして、俗称安田岩藏といへりといふ。青本を多く画けり。）○九月七日、俳諧師、雪中庵蓼太、歿す。行年七十歳。○此年、屠龍翁高嵩谷、浅草寺観音堂へ源三位頼政、猪早太と鶴退治の図を額とし掛く。（武江年表に、いはく横二間縦九尺もあるべし、此額に付て色々の評判あり。甲冑其他、故実を失ひたる由いふ人あれど、古画を潤色せる所にて、人物の活動普通の画匠の及ぶ所にあらずと。）○五月、哥麿「不仁野夫鑑」（洒落本）。此の書、東湖山人の作にして、安永四年に成れるものなれば世人、為に誤りて哥麿も安永四年に画けるものと為せり。実は永く写本にてありしを、本年出版に際して挿画を哥麿に画かせしものなれば、安永四年の画とは、いひ難きものなり。哥麿の処女作は安永八年に豊章と称して口画を画ける洒落本「すすはらゐ」「おきみやげ」等を以て嚆矢とすべきが如し。）

○天明八年 ○六月十二日、二世英一蜂（始め一艇と号す。）歿す。○八月三日、鳥山石燕歿す。（石燕は本姓佐野、名は豊房、零陵洞の号あり。初め狩野玉燕に学び、純浮世絵師にあらざる如きも、其の門人には浮世絵師とし大家歌麿を始めとして、長喜、春町の如き傑物を出だせり。其の歿年に就いては區々の説あるも、天明四年春出版の「通俗画図勢勇談」及び「百鬼徒然袋」に七十三翁と署せり。此二書、正月の出版なれば、其の前年に画きたるものなるを知るべく、七十三翁と記せるは其の前年、天明三年の意なる、将た其の翌年の出版を見越して記せるものなるか明らかならざるも此年天明八年に七十七歳似て歿せることは信を措くに足るものの如し。）○「文武二道萬石通」（版元、蔦屋重三郎）絶版処分。これ天明七年六月、松平定信（楽翁）が幕府の老中となりて、文武二道の奨励をなせしを風刺愚弄せしものなりしかば、忽ち絶版されしとなり。

○天明年間 ○如何なる方面にも文化的黄金時代なるが、殊に浮世絵界には前後比類なき大家の出でたる時にして、即ち鳥山石燕、石川豊信、勝川春章、一筆齋文調、歌川豊春、

石田玉山、北尾重政、恋川春町、司馬江漢、鳥居清長、喜多川哥麿、窪俊満、葛飾北齋、北尾政演、北尾政美、湖龍齋、長喜、勝川春潮、勝川春好、竹原春朝齋等あり。○戯作者に朋誠堂喜三二、市場通笑、伊庭可笑、芝全交、志水燕十、恋川春町、萬象亭、岸田杜由、唐来三和、恋川好町等あり。○狂歌師には四方赤良、鹿津部真顔、朱楽菅江、元の木阿弥、ききら錦鶏、宿屋飯盛、大屋裏住等のあるあり。○俳諧師には蓼太、蕪村、白雄、太祇、完来、暁臺、闌更等のあるあり。○書家には三井親和、東江源麟、韓天寿、関其寧等のあるあり。○和歌者流には千陰、春海、蘆庵、諸鳥等あるあり。実に文化燦然たる黄金時代なりといふべし。

○寛政元年 ○七月七日、戀川春町歿す。行年四十六歳。(春町は画を鳥山石燕に学び、俗称倉橋寿平といひ、原来、狂歌師にして狂鳴を酒上不埒と号し、小石川春日町に住せるを以て戀川春町とも称し、戯作に工みにて、安永四年正月出版の「金銀先生栄花夢」は実に自画作にして、其の當時の富川吟雪、鳥居清経等の画の生硬なる人物に比して、よく柔媚なる容姿を画けるより時好に適し、これより黒本時代と青本時代の分水嶺を劃出したるは春町の功なりとす。葉+町も亦偉なりといふべし。春町の死因に就いては、十一代家斉將軍の内行を風刺したる青本仕立の春画「遺精先生夢枕」を著し、為に禍を為して改易の悲運に至らんとせるを慨し、屠腹して死せりといふの説あり。もとより「鸚鵡返文武二道」なんども自然禍の因を成せるが如し。)

○寛政二年 ○此年、幕府より風俗を乱すもの及び政策上に不利なる絵本読本絵草紙等の取締令を發せり。其の地本問屋行事共え申渡書に「書物の儀毎々より厳敷申し渡し候処、いつとなく猥に相成り候何に寄らず行事改め候て絵本絵草紙類迄も風俗の為に不相成り猥ケ間敷等勿論無用に候。一枚絵類は絵而已に候はば大概は不苦。尤も言葉書等有之候はば早々是を改め如何成る品は板行為致申間敷右に付き行事改めを不用者も候はば早々訴可出候又改方不行届、或いは改めに洩れ候儀候はば行事共越度可為候。右の通り相心得可申候。尤も享保年中申し渡し置き候趣も猶又書き付けにて可相渡候間、此度申し渡し候儀等相含め改め可申し候、寛政二射抜年十月二十七日」とあり。

○寛政四年 ○十二月八日、勝川春章歿す。行年六十七歳。(春章は通称勇助、宮川春水の門人にして、初め勝宮川を称せり。旭朗井、酉爾、六六庵、李林等の号あり。縦画生と署せり。縦画生とは擅画などいへる意に同じくして、画方に依らぬほしいまなる画といふ意なり。役者の似顔を画くに工みにして歌川豊國なんどのほるかに上にあり。北尾重政を友とし善く、共に一部の絵本に画けるあり。) ○此年、橘保國歿す。行年七十六歳。(守國の男なり。) ○小松屋百亀歿す。行年八十餘歳。(江戸飯田町の薬種屋の主人にして、俗称三右衛門、剃髪して小松軒百亀と号せり。性絵画を好み、殊に京都の西川祐信の絵を私淑し、春画に工みなり。)

○寛政五年 ○此年、耳鳥齋歿せりといふ。(耳鳥齋は大坂の人にして俗称、松屋平三郎といひ劇道に通じ、又浄瑠璃を語るに堪能にして、家産を蕩盡してより骨董商となれり。)

絵はいはゆる鳥羽絵にして、長谷川光信の流を汲めるが如し。)

○寛政六年 ○此年、日光廟造営あり、葛飾北齋、狩野融川に隨うて絵事に従事せり。幾程も無くして江戸に歸れり。○此年出羽國最上より十二歳（或いはいふ十一歳）にて二十二貫目の体重ある大童山文五郎といへる者出で錦絵に画かる。角力となりしが、年長じて弱くなれりといふ。○此年、葛飾北齋、叢春朗と称す。

○寛政八年 ○四月十二日、一筆齋文調歿す。行年七十歳。（文調は初め石川幸元に絵を学び、後石川豊信、鈴木春信等を私淑し、勝川春章と共に俳優の似顔を描くに妙を得、春章合作の「絵本舞台扇」を描くに至れり。絵本は多く画かざりしも、細絵の役者似顔絵は春章に匹敵するものの如し。）○四月十二日、狂歌師、桑楊庵光歿す。○六月十五日、書家東江源鱗歿す。行年六十五歳。○慶遊齋歌政「常棣」（俳句集）（歌政は名古屋の人にして牧墨僊。初め哥麿の絵を学びし時の号なり。墨僊は名は信盈、通称新次郎、後登と改め、又助右衛門といへり。別に北僊、百齋、月光亭、北亭、斗岡楼等の号あり。尾張藩士にして禄五十石を食めり。文雅の士にして初め哥麿を私淑せし時は歌政といひ、後葛飾北齋に学ぶに及びて、歌政の号を其の門人沼田月齋に譲れり。北齋五十八にして名古屋に入りし時、墨僊が家に客たりといふ。墨僊、文政七年、歳五十にして歿せりといへば、今歳は実に二十二歳の青年なり。著書には「一宵話」「眞草画苑」「画賛図集」等あり。）

○寛政九年 ○六月三日、狂歌師蔦の唐丸歿す。行年四十八歳。（唐丸は絵本、細見或いは軟派書類の書肆蔦屋重三郎なり。蔦屋の為に當時の戯作者、浮世絵師、殊に山東京傳、喜多川哥麿等の庇護せられ其の驥足を延ばし得たるは世の知るところなり。唐丸歿後と雖も、一かどの書肆なりしが、唐丸生前よりは振るはざりしが如し。山谷の正法寺に葬る。）○十月二十日、大坂の浮世絵師、蔦關月歿す。行年五十一歳。（關月は太坂の人にして初め月岡丹下に学びたるも後浮世絵を画かずして終われり。通称原二、名は德基、字は子

温、中江藍江は実に關月の門より出でしといふ。)

○寛政十二年 ○此年、大坂の浮世絵師竹原春朝齋歿す。(春朝齋は春泉齋の父にして名を信繁といひ、本姓松本氏、通称竹原門次といふ。大岡春卜の門人なりといふ説あるも、月岡雪鼎に私淑せるものの如く、當時出版の名所図会に多く画き、亦、近路行者の読本の挿画は多く春朝齋の画けるところなり。)

○寛政年間 ○浅草隨神門前の茶店、難波屋のおきた、両国薬研堀の茶店、高島屋のおひさ、芝神明前の茶店、菊本のおはん、此の三人美人の名高く、能く清長、哥麿等の錦絵に画かれたり。○酒楼に於いての書画会、流行し出せり。

○享和元年 ○六月、梨木祐爲歿す。行年六十三歳。(祐爲は京都下鴨の祠官にして和歌に名あり。絵は西川祐信に学び、寛政九年出版の五升庵瓦全の編「職人盡發句合」の挿画は実に祐爲の画くところなり。)

○文化元年 ○八月二十三日、高嵩谷、歿す。行年七十五歳。(嵩谷は英流の画工にして、佐脇嵩之の高弟なり。屠龍齋、樂只齋などの号あり。浅草観音堂の源三位頼政主従の鶴退治の図の額は其の筆なり。) ○十一月二十二日、英派の画工、佐脇嵩雪、歿す。○五月二十七日、大坂町奉行より「絵本太閤記」の絶版を命ぜられ、六月四日、製本ならびに板木共取り上げらる。画工は法橋、岡田玉山、版元は勝尾六兵衛外五人なり。(此書、維新後大坂にて再版販売せり。) 同じき五月、江戸の浮世絵師、勝川春英、同春亭、歌川豊國、喜多川哥麿、同月麿など作画により手鎖五十日の刑に処せらる。○九月に至りて「絵本拾遺信長記」絶版を命ぜらる。○四月十三日、葛飾北齋、音羽の護国寺に於いて百二十疊敷の大厚紙に達磨を画く。後、文化十四年に至り、名古屋に於いて又画けり。一対の大画といふべし。

○文化三年 ○九月二十日、喜多川哥麿歿す。行年五十四歳(哥麿は鳥山石燕の門人にして、初め豊章と称せり。即ち師の豊房の名の豊の一字を譲られしものの如し。哥麿は浮世画界第一流の傑物にて時代も亦天明の黄金時代に最も其の妙腕を振へり。殊に美人を画くに艶麗なること哥麿の右に出づる者無きは世の定評のあるところなり。) ○大坂新町の人、明石屋甚藏なる者、江戸に下り、日本堤にて盗賊に遇ひ、浅草観音を念じて其の難を、

まぬかれし事あり。其の後、この事実を浮世絵に書き、錦絵に出版せるものあり。

○文化四年 ○此ころ、斎藤写楽歿す（写楽は東洲齋と号し、俗称十郎兵衛と呼べり。阿波藩の能役者にして、絵を能くし、殊に役者の似顔を画くに極端にその特色を発揮し、却って時好には適せざりしもの如し。）

○文化六年 ○正月、豊廣の挿絵にて、山東京傳作の「浮牡丹全伝」前編三巻四冊、出版せり。版元は四谷伝馬町の住吉屋政五郎なり。此書の挿絵精密、彫刻も亦精巧（彫刻師は小泉新八）なりしなれば、従って出版費も多大なるに、如何したりけん。売れ行き僅かに九十部にして、為に版元微禄し、政五郎の妻女は、それを気病みして死去せりといふ。此書の売れざりし所以は、世人、浸くにして馬琴の文章にあこがれ、さすが京傳の趣向のよきも、豊廣の挿絵も顧みざるに至りし為か。

○文化七年 ○十一月晦日、国政歿す。行年三十八歳。（奥州会津の産にして名を甚助といへり。豊國の門人にして特に役者の似顔を画くに堪能なりし。）○田善「佃島」（須賀川諏訪神社）（亞歐堂、永田善吉。司馬江漢の門人にして西洋画を学び、銅版画多くあり。）

○文化八年 ○此年、雨の屋鄰春、生まれる。（字は吉人、花所と号す。明治十五年九月十三日、七十二歳にて歿せり。）○此年、柳川重信の画としての処女作「京一番娘羽子板」成る。（出版は翌文化九年なり）按ずるに「無名翁隨筆」「増補浮世絵類考」などに、柳亭種彦初めての作、重信初めての画、京一番娘羽子板、西村與八板、文化四、五年の比なりとあるが、本書を実見するに序文に文化辛未（文化八年）秋稿成、壬申（文化九年）孟春發販、柳亭種彦誌と署せり。而も種彦の処女作は此年春、出版の青本、蘭亭北嵩の挿画にて「鱸庖丁青砥の切味」。読本には北齋の挿画にて「勢川橋龍女本地」なり。

○文化九年 ○此年、石田玉山歿す。行年七十六歳。（玉山は大坂の人。諱は友尚、字は子徳。岡田玉山の師なり。）

○文化十一年 ○正月十二日、歌川豊春歿す。行年七十八歳。（豊春は歌川流の画祖にして、俗称但馬屋庄次郎、生國は豊後の臼杵の人、始め京都に出て鶴沢探鯨の門に入り狩野派の絵を学び、後江戸に来たりて鳥山石燕、石川豊信などに私淑し、遂に一家を成せるが如し。号を一龍齋又潜龍齋といひ、芝宇田川町に住みしより、その町名に因んで歌川と称せるなりといふ。）○此頃、勝川春潮歿す。（春潮は勝川春章の門人にして通称を吉左衛門、雄文堂、忠林舎、吉左堂、東紫園など号あり。春潮は春章の高弟なれども、勝川派といはんよりは、大に鳥居清長の筆致に似たり。）○正月、北齋の「北齋漫画」初編出版。（「葛飾北齋傳」には文化十四年より追年出版して云々とあれども、実物を見るに本年、文化十一年甲戌孟春と奥附に署し、併も序文は文化壬申とあれば、文化九年より企画せるものたるを知る。）

○文化十二年 ○六月五日（或いはいふ五月二十一日）鳥居清長歿す。行年六十四歳。（清長は相州浦賀の産にして本姓關氏なり。日本橋本材木町に書肆を営みて俗称白子屋市兵衛といへり。鳥居清満の門人中は關清長と署し、師清満歿して嗣子幼なるより鳥居家特有の芝居の招牌を画く者無かりしより、清長嗣子清峰の成長するに至るの間鳥居を称して、芝居の招牌を画けり。清長内憂の似顔および芝居の招牌を画けりといふも、元来鳥居の所謂瓢箪足の様に抛りて画けるよりは、本性の清長特得の技倆を発揮せるより、當時の浮世絵師は歎然として清長を私淑するに至り、勝川春潮、歌麿、榮之、北齋、湖龍齋、俊満、豊春など、いづれも清長の筆致を真似るに至れり。かかる技倆を有したる清長にして晩年製作の少なきは、その何の故たりしか、怪訝に堪えざるところなり。）○十二月五日、泉目吉歿す。（目吉は守一と称せり。本郷に住せりといふも、伝記詳ならず）○十一月、鳥居清峰（俗名、庄之助、清満の子）五代目清満と改む。（これ清長歿し、おのれ自らも成長して鳥居の後を継ぐに然るべき年配に達したればなり。）

○文化十三年 ○九月七日、北尾政演歿す。行年五十六歳。（政演は即ち軟派の著述家として有名なる山東京傳の浮世絵師としての号なり。本姓岩瀬氏、京屋傳藏と称して、京橋に袋物屋を営みて生業とせり。絵を北尾重政に学び、葎齋政演と号せり。其の技倆を窺ふに足る好材料は天明四年出版の「吉原傾城新美人合自筆鏡」にして実に政演二十四歳の作なり。政演、多能にして後、一流の著作者となりてよりは又往日の如く浮世絵を画かづな

りしは惜しむべし。)

○文化十四年 ○宮城玄魚、生まれる。(梅素、玉杓子などの号あり、浮世絵を画き、草双紙の見返しに多く画けり。明治十三年二月七日歿す。行年六十四歳。)

○文政元年 ○十月二十一日、司馬江漢、歿す。行年七十二歳。(江漢、名は峻、春波樓と号す。初め鈴木春信の門人となりて春重と称し浮世絵を画き、又二代春信とも称せりといふ。後、長崎に至りて西洋画を学び盛んに油絵を画けり。又銅版画を製作す。亞歐堂田善は実に其の門人なりといふ。著書には西洋画談、西遊旅譚、長崎見聞志、春波樓筆記、和蘭通舶、泰西諸国銭考などあり。)

○文政二年 ○北尾重政、歿す。行年八十二歳。或いはいふ文政三年八十三歳にて歿せりと。(重政は幼名を太郎吉といひ、通称を佐助、久五郎などと呼び、紅翠齋、花藍、酔放散人、恒酔夫などの号あり。江戸横山町の書肆須原屋三郎兵衛の子にして、もと紀州の人なり。重政は、ひとり絵画のみならずして又、書を能くし、當時の江戸暦の版下は実に重政の一手に成れりといふ。) ○十月二十六日、勝川春英歿す。享年五十八歳。(春英は、春章の高弟にして俳優の似顔を能くし、又武者をも能くせり。本姓、磯田、通称久次郎、九徳齋と号せり。) ○此年秋、大坂の一田正七郎といへる者、箆にて人物鳥獸草花の類を作り、浅草奥山にて見せ物とす。此箆細工の見せ物は、その後、天保七年に至り両国回向院にて嵯峨の釈迦開帳の際、亀井町の箆細工の見せ物を出だせり。其の、いづれのなりしか浮世絵に画きたるあり。蓋し、これより度々ありし事なるべければ確かとは断じがたし。

○文政三年 ○八月三日、勝川春亭歿す。行年五十一歳。(春亭は春英の門人なり。通称山口長十郎、松高齋と号せり。武者絵、役者絵を善くせり。焉馬の歌舞妓年代記の挿画は春亭努力の作なり。○九月二十日、窪俊満歿す。行年六十四歳。(俊満は北尾重政の門人なり。又狂歌を宿屋飯盛に学びて狂名を南陀伽紫蘭と称せり。又文才あり青本を作り同じく南陀伽紫蘭と署せり。通称安兵衛、尚左堂、黄山堂などの号あり。本姓窪田を修して窪と称せり。尚左堂の号は左筆なりしを以て号せるなり。) ○正月より秋にわたりて両国橋詰に大きな細工物の見世物出づ。

○文政四年 ○清水爲齋、生る。(北齋の門人なり。明治十三年歿す。行年六十歳。) ○四月十三日、書画鑑定家として有名なる菅原洞歳、歿す。行年五十歳。○七月二十六日、狂歌師、腹殻秋人(書家として董堂敬義)歿す。行年六十四歳。

○文政五年 ○五月七日、亞歐堂田善歿す。享年七十五歳、或いはいふ七十三歳と。(田善は永田善吉の略称なり。亞歐堂と号す。岩代國須賀川の人にして、司馬江漢に就いて西洋画を学び、盛んに銅版画を製作せり。)

○文政五年 ○春より葺屋町河岸に於いて唐人踊の見世物を出す。カンカン踊りといふ。為に歌川国安の画にて「看々踊りきんらの唐金」といへる合巻五巻二冊出版さる。蘭麝臺薰の作なり。其の他、一枚物(錦絵)にも多く出でたり。

○文政六年 ○一壽齋国政生まれる。(後二代国貞となる。) ○淡島椿岳生る。(小林氏南平堂と号す。明治二十二年九月二十一日歿す。行年六十七。) ○二月八日、俳人谷素外歿す。行年七十五歳。(一陽井と号す。重政、豊國などの俳諧の師なり。) ○四月六日、蜀山人、歿す。行年七十五歳。○六月二日、談洲樓焉馬、歿す。行年七十餘歳。○七月十日、京都の浮世絵師、速見春暁齋、歿す。行年六十餘歳。(春暁齋、名は恒章、俗称彦五郎、実録體の読本を多く画作せり。○十一月十二日、高島千春、歿す。行年八十三歳。

○文政七年 ○三月二十一日、鋏形 齋(北尾政美)歿す。行年六十四歳。(政美は本姓鋏形氏、北尾重政の門人となりしより師の姓、北尾を称するを許さる。幼名三治郎、又三二といふ。号は政美又杉阜と称し、昨年、齋又紹眞と号せり。晩年の号は浮世絵を脱却して狩野或いは大和絵等を参酌せしよりの号なり。政美の作品中「略画式」「今様職人盡歌合」最も行はる。) ○九月十七日、勝山琢眼、歿す。行年七十八歳。

○文政八年 ○正月七日、初代豊國歿す。行年五十八歳。(初代豊國は倉橋五郎兵衛といへる木版彫刻師の子にして父は歌川豊春の知人なりしより、幼時より豊春の門に遊び、同門豊廣と共に浮世絵界に名声を博するに至りしなり。俳優似顔絵は其の得意とするところなれども、前半生の読本などの挿画も亦豊國独特の妙を有し、師の豊春よりは遥に門人も多く、歌川派を盛んならしめたるも豊國一人の力多かりしなり。一陽齋と号せり。○此年七月、前年歿せる北尾紹眞の絶筆にして且つ第一等の傑作「今様職人盡歌合」二冊出版、歌の判者は六樹園と眞顔なり。

○文政九年 ○七月十一日、荒井千春歿す。行年九十四歳。○前年、文政八年秋より冬にかけて疱瘡流行せしかば、溪齋英泉の画ける「疱瘡軽口ばなし後編子寶山」(軽口ばなしは享和三年の出版にて貞之の画なり。)といへる紅摺の絵草紙出版せり、世に疱瘡絵と称するものこれなり。

○文政十年 ○六月、勝川春好歿す。(春好は勝川春章の門人にして俳優似顔絵を善くし、師の春章と共に壺形の印章を用ひたるより小壺と称せらる。四十餘歳にして中風病に罹りしより左筆となり、晩年は振はずして終れり、門人、春扇、亦後に春好と称せり。)

○此年、肥前國生まれにて大空武左衛門といへる大男江戸に来る。時に歳二十三歳。身の丈七尺五寸、体重三十五貫目、錦絵に画きたるあり。蹄齋北馬の俳句に、大空のしぐれ飴

屋の傘借らん、といへるあり。此の武左衛門を詠めるなり。

○文政十一年 ○五月二十三日、歌川豊廣歿す。歳六十四歳。(豊廣は歌川豊春の門人として豊國と共にその高弟たり。芝片門前町に住し、通称岡島藤次郎、一柳齋と号せり。俳優似顔を画かずして美人画を善くせり。豊國は市井の美人を善くするに反し、豊廣は士分の美人を描くに巧みなりき、豊國とは同門なれども共に常に中違勝ちなりしを、式亭三馬、嘗て「一對男時花歌川」といへる合巻物を作り、豊廣と豊國とに挿画を画かせて仲直りの労を取りし事あり。書名の一対男は即ち歌川派の画工として、その流行といひ豊廣と豊國とが一對の男なりといふ意なり。豊國は門人に國貞と國芳を出だせるに豊廣は廣重を出だせり。又、子息に金藏豊清ありしも早世せり。) ○十一月二十一日、酒井抱一歿す。行年六十八歳。

○文政十二年 ○七月二日、細田榮之、歿す。行年七十三歳。(榮之は幕府の勘定奉行細田丹波守三世の裔、弾正時行の長子にして、名は時富、治部卿と称せり。禄は五百石を賜わりし家柄の出なり。初め画を狩野榮川院典信に学び、後一流の浮世絵画家となれり。号は鳥文齋、版画よりは肉筆画に富み、多く美人殊に遊女を画けり。) ○六月六日、狂歌堂眞顔歿す。行年七十七歳。○(雁註) 曲亭馬琴、馬琴日記の文政十二年二十一日の項に「夕方、芝片門前画工歌川豊廣家内より、使を以、豊廣事、昨夜病死いたし候二付、明廿二日干る九時送葬のよし、しらせ来ル。相応之挨拶いたし遣ス。とり次おみち也。但、此節無人、且、病人有之時がら、遠方故、速に弔しがたかるべし。」[曲亭馬琴(原著)、暉峻康隆、木村三四吾(校訂)、昭和48、馬琴日記第二、262頁、中央公論社](鈴木重三先生の御指摘)。

○天保元年 ○歌川国輝、生る。(明治七年二月十五日歿す。行年四十五歳。) ○閏三月二十四日、六樹園飯盛、歿す。行年七十八歳。○十一月二十日、高嵩月、歿す。行年七十五歳。(嵩月は嵩谷門人なり。)

○天保二年 ○河鍋暁齋、生る。(明治二十二年五月歿す。行年五十九歳。) ○八月七日、十返舎一九、歿す。行年六十八歳。(十返舎一九は駿河の産にして江戸に住し、戯作者を以て名あり。膝栗毛は実に其の作なり。浮世絵を画き「江戸名所」はその傑作なり。寛政の頃、自作の黄表紙に多く画けり。画は拙にして榮水、一雅などと同格なり。姓は重田氏、名は貞一、通称與七、幼名幾次郎といふ。十偏舎又十返齋とも署せり。) ○此ころ、葛飾北齋、信州高井郡小布施村に到り、門人高井三九郎の家に寓し、居ること一年あまりなりしといふ。

○天保三年 ○此年、六代目鳥居清満(五代目の男)生る。○七月六日、歌川國安歿す。行年三十九歳。(國安は江戸の人にしてとよくにの門人なり。俗称安五郎、一鳳齋と号せり。一時、西川安信と号せりといふ。) ○此年、春英門人、春幸、旭松井春章と名乗り、二代春章となる。○閏十一月二十八日、柳川重信歿す。行年四十六歳或いはいふ五十餘歳と。(重信は北齋の門人にして、その女婿となり雷斗の号を譲らる。俗称、鈴木重兵衛といひ、本所柳川町に住せりより柳川を以て姓とせり。馬琴の里見八犬傳の挿画は重信、英泉、貞秀などの画くところなり。)

○天保四年 ○四月十四日、尾張の大石眞虎歿す。行年四十二歳。○此年、長谷川雪旦の画に成れる「江戸名所図会」梓行。奥附に天保五年甲午孟春とあれば、天保五年の條に載

すべきものなれども、著者齋藤月岑、武江年表に自ら天保四年の條に載せあれば此に掲ぐ。序文は又亀田長梓、松平冠山公、片岡寛光などにて、いづれも天保三年なり。此を以て見れば天保四年中には全く成りて天保五年春より市中に出だせるなり。為に出版物の前後は一、二年の間は争ひがたきものなるを知るに足るなり。

○天保五年 ○四月十五日、石川清澄、歿す。行年四十九歳。(六樹園の男にして狂歌師なるが、亦浮世絵もいささか画きたり。)

○天保六年 ○十一月二日、本郷豊國歿す。行年五十九歳。(本郷豊國は初代豊國の門人にして、二代豊國と成れり。本郷春木街に住せるを以て本郷豊國と称せられ、亦通称源藏なるを以て源藏豊國とも称せらる。二代豊國と称せるは師の歿後、五、六年間なり。(一龍齋、後素亭、一瑛齋などの号あり。三代豊國は即ち五渡亭國貞なれども亦國貞を二代豊國と認むるの説あり。)

○此年、葛飾北齋相州浦賀に潜居し、姓名を三浦屋八右衛門と称せり。

○天保七年 ○三月七日より、岩代柳津の虚空藏菩薩淺草寺念仏堂にて開帳す。此時、会津の産にて七歳の三ツ子、日々開帳場へ見世物に出づる。長男鶴松、二男竹松、三男亀松といへり。此の三つ子を見て、日尾 山「品生談」を著はせり。又、一枚絵にも画かれたるあり。

○天保八年 ○此年、芳虎(國芳門人)の画ける一枚錦絵「道外武者御代の若餅」出版。画様は織田信長、明智光秀と共に餅をつき、其のつきたる餅を豊臣秀吉が、のし板にて、のし、徳川家康らしき武者が其の餅を食ひ居るところにして、織田、明智、豊臣など千軍萬馬の間を往来して平定したる天下を徳川家康が、ゐながら取りしを諷せし画なる事は誰か目にも悟り得らるる者なれば、幕府の命にて木版は焼棄され、画工芳虎は手鎖五十日の

刑に処せられしといふ。

○天保十年 ○月岡芳年、生る。(明治二十五年六月九日歿す。行年五十四。)○此年、一立齋廣重の画ける相州江ノ島弁材天開帳参詣群集図三枚続の錦絵あり。又、岩屋の図、七里濱の図などあり。

○天保十三年 ○六月、國貞の画にて種彦の作なる「修紫田舎源氏」を出版せる鶴屋喜右衛門、町奉行所に召喚せられ板木取り上げられ且つ所払いの刑に処せらる。作者種彦は調べ中、翌七月、此の事を苦に痛みて歿せり。當時は水野越前守忠邦、諸政改革の折とて六月の禁令中に、「自今新板書物の儀、儒書仏書神醫書歌書、都て書物類其の筋一通の事は格別、異教妄説を取り交へ作り出し、時の風俗、人の批判などを認め候類、好色画本など堅く可爲無用事」といふ箇條あり。○又、六月四日、幕府、絵草紙人情本などの取締令を下し、俳優妓女などの一枚摺、錦絵の刷行並びに売買を禁じ、且つ合巻絵双紙の絵組に俳優の似顔狂言の趣向を用ひ、或いは表紙上包に一切彩色を施す事を厳禁せり。又、七月、更に令を発し、人情本の売買賃を禁止し、書肆藏する所の其の書冊併せて板木を歿収せらる。○十一月晦日、幕府、又令を書肆組合世話掛名主に下し、合巻絵草紙の類、都て草稿中に掛かりの名主番の認印を受け、出版の際検定せしむる事とせり。○此年、又爲永春水作の人情本或いは春画本にて國直、國貞などの画けるもの、絶版の命を受け、其の板木焼棄せられたるもの五車程ありしといふ。

○天保十四年 ○鮮齋永濯生る。(小林氏、明治二十三年五月二十七日歿す。行年四十八歳。)○正月二十八日、長谷川雪旦歿す。(行年六十六歳)○十二月二十一日、英一珪歿す。(行年八十餘歳)○此年、一勇齋國芳の画ける三枚続きの錦絵「源頼光公館土蜘蛛妖怪図」と題せるもの絶版の命を受けしといふ。此絵は源頼光土蜘蛛の怪に悩まざるところにして四天王燈下に

○弘化元年 ○八月十六日、有阪北馬歿す。行年七十四歳。(天保十一年八月成れる「狂歌続歎娛集」に七十一歳蹄齋北馬筆と署しあれば、今年七十五歳なるが如し。北馬、俗称有阪五郎八、本姓星野、駿々齋、秋園などの号あり。北齋の門人なえども、谷文晁と交友あり。版画も少なからざれども北齋門中、肉筆の作の多きは北馬に及ぶ者なし。○七月二十八日、俳諧師、田喜庵護物歿す。行年七十三。

○弘化二年 ○十二月、三代廣重生る。(明治二十七年三月二十一日歿す。行年五十三。)○九月、江戸麻布にて唐黍の実変じて 冠の如き形となりしを諸人恠みて、國芳などは錦絵にまで画きたり。(色灰白にて柔らかく田舎には能くある物にて十に二、三は出来るものなり。珍しき物にはあらず。)

○弘化四年 ○八月一日、小林清親生る。(大正四年十一月二十九日歿す。行年六十九。)○此年三月八日より、信州善光寺如来の開帳。三月二十四日夜に入りて大地震、人馬多く死す。錦絵に鯨を画きて種々所作を附加せるは此年の出版に係れるもの多し。

○嘉永元年 ○七月二十二日、池田英泉歿す。行年五十七歳(姓は池田、溪齋と号し名は義信。通称善次郎、又一筆庵可候と号して戯作をものし、無名庵と号しては教訓物、或いは随筆殊に無名庵隨筆は古来より當時に至る間の浮世絵師の略傳なり。)○十一月六日、曲亭馬琴歿す。行年八十二。○此年、葛飾北齋、八十九歳にして浅草聖天町遍照院境内に住す。

○嘉永二年 ○四月十八日、葛飾北齋歿す。享年九十。

○嘉永三年 ○四月九日、魚屋北溪歿す。行年七十歳(北溪、姓は岩窪、俗称初五郎、又金右衛門といひ、北齋また葵岡と号せり。葛飾北齋の高弟なり。魚商を生業とせしを以て魚屋と称す。)○宮武外骨氏の「筆禍史」に浮世絵師説諭と題して下の記事あり。同年(嘉永三年)八月十日、錦絵の認め方につき、浮世絵師、数名、役人の糺問を受けたる事あり。「御仕置例題集」によりて其の憐愍書の一節を左に録す。

一體、絵類の内、人物不似合の紋所など認め入れ、又は異形の亡霊など紋所を付け其の外、時代違いの武器、取り合せ、其の外にも紛敷く兎角、考為合、買人に疑察爲致候 様専ら心掛候哉に相聞え殊に絵師共の内、私共別て所業不宜段入御聴、重々奉恐入候。今般の御沙汰、心魂に徹し恐縮仕候。以下、尚、長々と認め、此度限り特別に御憫察を乞ふ旨を記せり。其の連名、左の如し。

新和泉町又兵衛店

國芳事 孫三郎

同人方同居	芳藤事 藤太郎
南鞆町六左衛門店	芳虎事 辰五郎
本町二丁目久次郎店清三郎弟	芳艶事 萬吉
龜戸町孫兵衛店	貞秀事 兼次郎

南隠密御廻定御役人衆中 様

隠密といへるは現今の刑事巡査(探偵)の如き者なり。浮世絵師、数名は、あやまり証文にて起訴さるる事もなく、平穩に済みたるなり。と。

○嘉永五年 ○此年三月、一勇齋國芳の画ける、彩色を以て有名なる錦絵、橋本屋白糸の像、出版。彫刻師は彫竹、版元は赤坂の金吉なり。(武江年表、本年の條に「猿若町二丁目、市村羽左衛門が芝居にて、享和の頃、青山辺りなる鈴木主水といふ武士、内藤新宿の賤妓、白糸と俱に情死せしこと俗謡に残りしを狂言に、しくみて興業しけるが、殊の外、繁昌しければ、俳優二代目坂東秀佳、内藤新宿北裏通、成覚寺へ、白糸が墳墓を営みたり」とありて、此の國芳の画ける白糸に扮せる像は坂東秀佳の似顔なり)○此年、國政(二人あり、初めの國政にあらず)二代國貞と称す。○又、武江年表本年の條に豊國(初代國貞をいふ)が筆にて天明の頃より文化頃までの俳優似顔絵を梓行せしむ」とあり。即ち「俳優見立五十三次」をいへり。

○嘉永六年 ○此年、六月二十四日、柳橋の西なる料理店河内屋半次郎が樓上にて、狂歌師梅の屋株翁が催せる書画会の席にて一勇齋國芳、酒興に乘じ、三十畳程の渋紙へ、水滸伝中の人物、九紋龍史進憤怒の像を画き、衣類を脱ぎ絵の具に、ひたして彩色を施せりと

いふ。文化十四年、葛飾北齋が名古屋にて画ける達磨の大幅と共に好一對の奇談といふべし。○此年、七月、國芳「浮世又平名画奇特」といへる錦絵を画き、板元と共に過料錢申し渡さる。即ち「続々泰平年表」嘉永六年の條に「癸丑七月、國芳筆の大幅津絵流布す。此絵は當御時世柄、不容易の事共差し含み相認め候判詞物のよし、依之売捌被差留筆者板元過料錢被申渡」とあり。○此年、又、國芳「難病療治」の錦絵を画き発売禁止されしといふ。

○安政元年 ○六月二十八日、歌川國直歿す。行年六十二。(國直は豊國の門人にして俗称、鯛藏といひ、一烟齋、独醉舎、柳烟樓、浮世庵などの諸号を有せり)

○安政二年 ○八月十一日、沖一峨歿す。行年五十八。○一壽齋國政(二代國政)初代國貞の長女なべ女の婿と成り、二代國貞と改むといふと或る書に見ゆれども、二代國貞と称せるは此年より以前の事なり。○十月二日、江戸大地震、爲に「地震並出火細見記」「大地震曆考」などの絵入本出づ。その一枚物の摺物、三枚続きの錦絵など出版になれる其の数を知らず(「安政見聞録」は翌年出版)

○安政三年 ○十二月二十日、喜多武清歿す。行年八十一。(武清は文晁の門人なれども、読本などにも画けるあり)○十二月五日、墨川亭雪麿歿す。行年六十。戯作者なれども月麿に浮世絵を学べり。

○安政五年 ○九月六日、一立齋廣重歿す。享年六十二。(或いはいふ六十一歳と。)此年、夏より虎列刺病流行し、廣重も此病にて歿せりといふ。其の他、知名の人にて同じく虎列刺にて歿せるは山東京山、柳下亭種員、樂亭西馬、五代目川柳、鈴木其一などなり。(廣重は安藤氏、俗称徳太郎、又徳兵衛といひ、江戸八重州河岸定火消屋敷の同心安藤徳右衛門の子なり。十五歳にして歌川豊廣の門に入り、一幽齋、一遊齋などの号あり。文政

の末、一立齋と改め、又、立齋とも号し「立齋百画」などもあれど多くは一立齋と号し、単に立齋と号せるは二代廣重なり。○九月、葛飾爲齋の画に成る「日蓮上人一代図会」出版。松亭金水の著述なり。此の書、明治二十一年に至りて画工の爲齋の爲の字を削り、北の字を填板して葛飾北齋の画として売り出だせり。此書、爲齋の傑作にして北齋に劣らぬ程の名画なるに、世俗北齋のみを崇拜して爲齋を顧みざるをもて、爲齋の名を埋没せしめたるは己の利を計りて他の名を永久に葬りたる悪みても餘りあり。此書肆は東京の御徒町の金兵衛なる者なるが、名古屋の書肆文助なる者が、北溪の画ける傑作「狂歌東關驛路鈴」を「北齋道中画譜」と改題して販売せると一対の奸策なり。

○万延元年 ○十二月十七日、大坂の暁鐘成歿す。行年六十八歳。(姓は木村、俗称弥四郎、名は明啓、暁晴翁、鹿の屋眞萩、漫戲堂などの号あり。戯作狂歌を能くし、又浮世絵を画けり。丹波福知山に遊び藩主の失政あるを見て、人民の為に訴状、檄文などを草し、獄に投ぜられ、遂に獄中に死せりといふ。○此年、國芳の門人一寶齋芳房歿す。行年二十四。

○文久元年 ○三月五日、一勇齋國芳没す。行年六十五歳。(國芳は初代豊國の門人なり。江戸神田に生まれ、姓は井草、俗称孫三郎、一勇齋又朝櫻樓とも号し、歌川派中、玉蘭齋貞秀と共に武者絵に堪能なり。)

○元治元年 ○十二月十五日、初代歌川國貞歿す。行年七十九。(國貞は初代豊國の高弟にして三代豊國となれり。姓は角田、俗称庄藏、本所五ツ目の渡船場の株を有せし人にて五渡亭と号して、又香蝶樓とも号せり。師の豊國と同じく役者似顔を画くに堪能なり)

○慶應三年 ○菊川英山、歿す。行年八十一。(英山は溪齋英泉の師なり。名は俊宣、俗称は近江屋萬五郎、重九齋の号あり。錦絵に美人を画けるを見れども、図書には稀に見るところにして、文久三年七十七歳の高齡を以て画きたる「江戸大節用海内藏」といへる大本二冊あり。) ○十月九日、鳥居清行歿。行年三十二。